Searching PAJ 1/2 ページ

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number: 05-271229 (43)Date of publication of application: 19.10.1993

(51)Int.Cl.

C07D471/04 C07D471/04 C07D498/04 C07D519/00 C07D519/00 // A61K 31/435 A61K 31/47 A61K 31/535 (C07D519/00 C07D471:00 C07D471:00 C07D498:00

(21)Application number : 05-015917 (71)Applicant : BAYER AG

(22)Date of filing: 05.01.1993 (72)Inventor: PETERSEN UWE

KREBS ANDREAS SCHENKE THOMAS PHILIPPS THOMAS GROHE KLAUS

BREMM KLAUS-DIETER DR ENDERMANN RAINER

METZGER KARL-GEORG

HALLER INGO

(30)Priority

Priority number: 92 4200414 Priority date: 10.01.1992 Priority country: DE

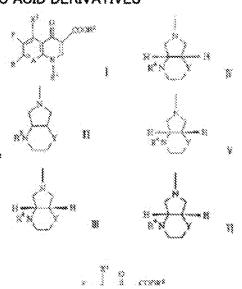
92 4208789 19.03.1992 DE 92 4208792 19.03.1992 DE

(54) QUINOLONE-AND NAPHTHYRIDONE-CARBOXYLIC ACID DERIVATIVES

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide new quinolone—and naphthyridone—carboxylic acid derivatives having high activity for various microorganisms and useful as antibacterial agents and feed additives.

CONSTITUTION: The compound expressed by formula I [A is CH, CF, CCI, C-OCH3, C-CH3, N; X1 is H, a halogen, NH2, CH3; R1 is an alkyl. CH2CH2F, cyclopropyl, substitutable phenyl; R2 is H, a substitutable alkyl, 5-methyl-2- oxo-1,3-dioxol-4-yl-methyl; B is the group of formula II to VI [Y is O, CH2; R3 is an oxoalkyl, CH2-CO-C6H5, CH2CH2CO2R' (R' is H, an alkyl), etc.; R4 is H, an alkyl, R3, etc.]], for example, 1-cyclopropyl-7-([S,S]-2,8- diazabicyclo[4.3.0]non-8-yl)-6,8-difluoro-1,4-dihydro-4-oxo-3-quinolinecarboxylic acid, is obtained by allowing a compound of formula VII to react



Searching PAJ 2/2 ページ

with a compound of the formula; R3-R3 (X3 is a halogen) in the presence of an appropriate acid bonding agent.

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出顯公開番号

特開平5-271229

(43)公開日 平成5年(1993)10月19日

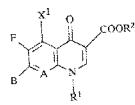
(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	FΙ	技術表示箇所
C 0 7 D 471/04	104 H	88294C		
	114 A	8829-4C		
498/04				
519/00	3 0 1	8415-4C		
		8415-4C	C 0 7 D 498/ 04 1 1 2 T	
			審査請求 未請求 請求項の数1(全 55 頁)	最終頁に続く
inal alaes with	WENTE ADDAG		(G1) (LISS G0000000	

(21)出願番号 特顯平5-15917 (71)出願人 390023607 バイエル・アクチエンゲゼルシャフト (22)出願日 平成5年(1993) 1月5日 BAYER AKTIENGESELLS CHAFT (31)優先権主張番号 P4200414. 4 ドイツ連邦共和国 5090 レーフエルクー (32)優先日 1992年1月10日 ゼン1・パイエルベルク (番地なし) (72)発明者 ウベ・ペーターゼン (33)優先権主張国 ドイツ (DE) (31)優先権主張番号 P4208789.9 ドイツ連邦共和国デー5090レーフエルクー (32)優先日 1992年3月19日 ゼン1・アウフデムフオルスト4 (33)優先権主張国 ドイツ (DE) (72)発明者 アンドレアス・クレプス (31)優先権主張番号 P4208792.9 ドイツ連邦共和国デー5068オーデンター 1992年 3月19日 ル・アムガルテンフエルト70 (32)優先日 (33)優先権主張国 ドイツ (DE) (74)代理人 弁理士 小田島 平音

(54)【発明の名称】 キノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導体類

(57)【要約】 【權成】 式

(修正有)



のキノロン - 及びナフチリドン - カルボン酸誘導体類 〔式中、AはCH、CF、CC I、C—OC H3、また はNを表わし、Bは式

の基を表し、X¹はH、ハロゲン、NH₂, CH₃を表

し、 R^1 は $C_{1\sim3}$ -アルキル、 $F-CH_2$ C H_2 -、シクロプロビル、 (ハロ) フェニルを表し R^2 はH、 ((微換) $C_{1\sim3}$ -アルキル等を表す。)

最終頁に続く

【効果】 各種微生物に対して高い活性を有しており、 抗パクテリア剤、飼料添加物等として有用である。 【特許請求の範囲】

【請求項1】 式(1)

[(2.1]

[式中、

AUCH, CF, CCI, C-OCH3, C-CH3 # 2 はNを表し、

*X'はH、ハロゲン、NHzまたはCH3を表し、 R¹はC₁-C₃-アルキル、FCH₂CH₂-、シクロプロ ピルまたは場合によりハロゲンによりモノ優換ないしト リ置換されていてもよいフェニルを表すか、或いはAお よびR¹が一緒になって構造C-O-CH₂-CH(C H3)ーの架橋を示すこともでき、

RIはH、場合によりヒドロキシル、ハロゲンもしくは アミノにより篦換されていてもよいCi-Ci-アルキ ル、または5-メチル-2-オキソ-1,3- ジオキソ 10 ルー4ーイルーメチルを表し、

Bは式

【化2】

の基を表し、ここでYはOまたはCHzを表し、そして ₩ø Hs.

R³はC2-C5-オキソアルキル、CH2-CO-C ® 20

 $CH_2 CH_2 CO_2 R'$, $R'O_2 C-CH=C-CO_2 R'$,

-CH=CH-CO2R'またはCH2CH2-CNを表 し、ここでR′は水素またはC1-C3-アルキルを示

★R⁴はH、C₁-C₃-アルキル、5-メチル-2-オキ ソー1,3-ジオキソルー4ーイルーメチル、C2-C5 · オキソアルキル、CH2-CO-C6H5

. $CH_{2}CH_{2}CO_{2}R'$, $R'O_{2}C-CH=C-CO_{2}R'$,

-CH=CH-CO2R' またはCH2CH2-CNを表 し。ここでR'は水素またはC1-C3・アルキルを示 す」のキノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導 30 体類、並びにそれらの薬学的に有用な水和物および酸付 加塩類。並びに基礎となるカルボン酸類のアルカリ金 属、アルカリ土類金属、銀およびグアニジニウム塩類。

【発明の詳細な説明】 【0001】本発明は、新規なキノロン一およびナフチ リドンカルボン酸誘導体類、それらの製造方法、並びに☆

> 0 $COOR^2$

【0005】 [式中、AはCH、CF、CC1、C-0 CH3、C-CH3またはNを表し、X1はH、ハロゲ ン、NH2またはCH2を表し、R1はC1-C3・アルキ ル、FCH2CH2-、シクロプロビルまたは場合により ハロゲンによりモノ置換ないしトリ置換されていてもよ いフェニルを表すか、或いはAおよびR¹が一緒になっ て構造C-O-CH2-CH(CH3)-の架橋を示すこと 50

☆それらを含有している抗バクテリア剤および飼料添加物 に関するものである。

【0002】7一位置で二環式アミン基により置換され ているキノロンーおよびナフチリドンカルボン酸類はす でにヨーロッパ特許出額0,350,733中に開示され ている。

【0003】本発明は、式(I)

[0004]

【化3】

(I)

もでき、R²はH、場合によりヒドロキシル、ハロゲン もしくはアミノにより置換されていてもよいC1-C3 - アルキル、または5-メチル-2-オキソー1,3-ジオキソルー4-イルーメチルを表し、Bは式

[0006]

[化4]

【0007】の基を表し、ここでYはOまたはCH2を *CO-C6H5. 表し、そしてR3はC2-C5-オキソアルキル、CH2-*

 $CH_2CH_2CO_2R'$, $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$,

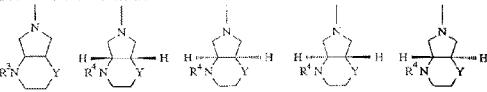
-CH=CH-CO2R' またはCH2CH2-CNを表 し、ここでR'は水素またはC1-C3-アルキルを示 し、R4はH、C1-C3-アルキル、5-メチルー2- ※ ※オキソー1,3-ジオキソルー4-イルーメチル、C2-Cs-オキソアルキル、CH2-CO-C6Hs

, $CH_2 CH_2 CO_2 R'$, $R' O_2 C - CH = C - CO_2 R'$,

- CH=CH-CO2R' またはCH2CH2-CNを表 し、ここでR′は水素またはC1-C3-アルキルを示 す)の新規な化合物類、並びにそれらの薬学的に有用な 水和物および酸付加塩類。並びに基礎となる(unde 土類金属、銀およびグアニジニウム塩類に関する。本発 明に従うこれらの化合物類はそれらが休眠性(dorm ant) および抵抗性の微生物に対する高い活性を有す ることにより特徴づけられる。

【0008】好適な式(1)の化合物類は、AがCH、★

★CF、CC1、C-OCH3またはNを表し、X1がH、 F、CI、Br、NHzまたはCH3を表し、R1がC2H 5、シクロプロピルまたは2,4-ジフルオロフェニルを 表すか、或いはAおよびR¹が一緒になって構造C-O r1 y i n g) カルボン酸類のアルカリ金属、アルカリ 20 -C H₂ -C H(C H₃) - の架橋を示すこともでき、 \mathbb{R}^2 がH、CH3、C2H5または5-メチルー2-オキソー 1.3-ジオキソル-4-イル-メチルを表し、Bが式 [00009] 【化5】



【0010】の墓を表し、ここでYがOまたはCHzを \$\times C \times H \times C \ 表し、そしてR3がCHz-CO-CH3、CHz-CO-☆

 $CH_2 CH_2 CO_2 R'$, $R' O_2 C-CH=C-CO_2 R'$, $-CH=CH-CO_2$

R' またはCH2CH2-CNを表し、ここでR' がC1 -C2-アルキルを示し、R4がH、C1-C3-アルキ ル、5-メチル-2-オキソ-1,3-ジオキソル-4 ◆ ◆-イルーメチル、CH2-CO-CH3、CH2-CO-C6H5, CH2CH2-CO-CH3, CH2CH2CO 2 R '

R'O2C-CH=C-CO2R', -CH=CH-CO2R' stt

CH2CH2-CNを表し、ここでR'がC1-C2-アル キルを示す。ものである。

【0011】特に好適な式(I)の化合物類は、AがC H、CF、CC1、C-OCH3またはNを表し、X¹が H、F、C1、Br、NH2またはCH3を表し、R'が C_2H_5 , $\sqrt{2}$

ニルを表すか、或いはAおよびR1が一緒になって構造 C-O-CH2-CH(CH3)-の架橋を示すこともで き、R2がH、CH3またはC2H5を表し、Bが式 [0012] 【化6】

【0013】の基を表し、ここでYがOまたはCH2を 表し、そしてR4がH、C1-C3-アルキル、5-メチ ル-2-オキソ-1,3-ジオキソル-4-イル-メチ *

*/ ν , CH₂-CO-CH₃, CH₂-CO-C₆H₅, CH₂ CH₂-CO-CH₃, CH₂CH₂CO₂R',

 $R \, ' \, \, O_2 \, C - C H = C - C \, O_2 \, R \, ' \, \, , \, \, - C \, H = C H - C \, O_2 \, R \, ' \, \, \, \sharp \, \hbar \, t \,$

 CH_2CH_2-CN を表し、ここでR' が C_1-C_2-P ルキルを示す、ものである。

【0014】A、X¹、R¹およびR²が上記の意味を有 しており、そしてBが式

[0015]

【化7】

 R^3N Y X^1 $COOR^2$

【0018】 (式中、A、Y、X¹、R¹およびR²は上 記の意味を有する)の化合物を、適宜酸結合剤の存在下 で、式 (III)

[0019]

【化9】

 $R^3 - X^3 \tag{111}$

【0020】A、X¹、R¹およびR²が上記の意味を有 ★

 $R^{\,\prime}\,\,O_2\,C - C\,H = C - C\,O_2\,R^{\,\prime}\,\,,\,\, - C\,H = C\,H - C\,O_2\,R^{\,\prime}\,\,\text{s.t.}$

 CH_2CH_2-CN を表し、ここでR' が水素または C_1-C_3- アルキルを示す、本発明に従う式(1)の化合物類は、式(H)

【0023】 【化11】

【0017】 【化8】

(II)

[0021]

★しており、そしてBが式

[作10]

$$R^{3}N$$
 Y

40 【0022】の基を表し、ここでYが上記の意味を有し ており、そしてR³がCH₂CH₂-CO-CH₃、CH₂ CH₂-CO₂R'、

$$\begin{array}{c|c}
 & X^1 & O \\
 & X^1 &$$

【0024】の化合物を、ミハエル受容体 (Micha el acceptor)、例えばアセチレンジカルボ ン酸ジアルキル、プロビオン酸アルキルまたは式(1 V)

[0025]

[(£12]

 $CH_2 = CH - R^5$

* 〔式中、R5はCOCH3、CO2R' またはCNを表 ず〕の化合物と反応させることにより得られる〔方法 10 B) o

【0026】式(1)のエナンチオマー的に純粋な化合 物類を製造するためには、式(V)

(Y)

(II)

[0027]

[作13]

$$\begin{array}{c|c}
X^1 & O \\
F & X^2 & A \\
X^2 & A \\
X & R^1
\end{array}$$
COOR²

(IV)

【0028】 (式中、A、R¹、R²およびX¹は上記の 意味を有し、そして X2 はハロゲン、特に弗素または塩 素を表す)の化合物を、適宜酸捕獲剤の存在下で、式 章 **※**(∀!) [0029]

[(E14]

【0030】 (式中、YはOまたはCHzを表し、そし てR⁴はHまたはC1-C3-アルキルを表す」のエナン チオマー的に純粋な化合物と反応させ、そして反応生成 物を場合によりさらに式(IIIa)

[0031]

[BE 15]

$$R^4 - X^3 \tag{III a}$$

(式中、X3は上記の意味を有しており、そしてR4はC 2-C5-オキソアルキル、CH2-CO-C6H5、CH2 CH2CO2R' またはCH2CH2-CNを表し、ここで R'は水素またはC1-C3-アルキルを示す〕の化合物 と或いはミハエル受容体、例えばアセチレンジカルボン 40 【0034】 酸ジアルキル、プロピオン酸アルキルまたは式(IV)

[0032]

[(£16] $30 \text{ CH}_2 = \text{CH} - \text{R}^5$ (V)

《式中、RSはCOCH3、CO2R' またはCNを表 す〕の化合物と反応させることにより、得られる〔方法 0) .

【0033】例えば、8-クロロー1-シクロプロピル -6,7-ジフルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー 3-キノリンカルボン酸および〔S,S〕-2,8-ジア ザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンを出発化合物類として使 用するなら、反応工程は下記の反応式により表すことが できる:

【化17】

【0035】例えば、6,8-ジフルオロー1-(2,4) ージフルオロフェニル) -1,4-ジヒドロ-7-((1S,6R)-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノニー8ール) -4-オキソー3-キノリ ンカルボン酸およびアセチレンジカルボン酸ジエチルを * 20

*出発物質類として使用するなら、反応工程は下記の反応 式により表すことができる:

[0036]

【化18】

【0037】出発物質として使用される式(II)のラセ マー的に純粋な化合物類は新規でありそして種々の方法 で得られる。

【0038】1. 式(H)のラセミ体中関生成物をエナ ンチオマー的に純粋な補助試薬と反応させ、生成したジ

アステレオマー類を例えばクロマトグラフィーにより分 ミ体化合物類は主に既知である。式(II)のエナンチオ 40 離し、そして偏光補助基を再び希望するジアステレオマ ーから分離する。下記の反応が例として示される:

[0039]

【化19】

【0040】2. エナンチオマー的に純粋な化合物状の 二環式アミン類 (VI) は新規である。それらは下記の 方法により製造することができる。

【0041】2、1、ラセミ体二環式アミン類(a) 【0042】

【0043】〔式中、R⁴は日またはC1-C1-アルキルを表す〕をエナンチオマー的に純粋な酸類、例えばカルボン酸類またはスルホン酸類、例えばN-アセチルーLーグルタミン酸、N-ベンゾイルーLーアラニン、3-ブロモ樟脳-9-スルホン酸、樟脳-3-カルボン酸、シスー樟脳酸、樟脳-10-スルホン酸、O,O'-ジベンゾイルー酒石酸、D-もしくはL-酒石酸、マンデル酸、α-メトキシーフェニル酢酸、1-フェニルーエタンスルホン酸またはα-フェニルー琥珀酸、と反

応させてジアステレオマー塩類の混合物を与え、それを分別結晶化により分離してジアステレオマー的に純粋な塩類を与えることができる(P.ニューマン(Newman)、化学化合物類の光学的分割工程(Optical Resolution Procedures for Chemical Compounds)、1巻参照)。アミンとエナンチオマー的に純粋な酸との間のモル比は比較的広い範囲内で変えることができる。これらの塩類をアルカリ金属またはアルカリ土類金属水酸化物類で処理することにより、エナンチオマー的に純粋なアミン類を遊離させることができる。

【0044】2.2.2.1.に記されているのと同様な方法で、ラセミ体二環式アミン類の製造中に生じる塩基性中間生成物の分割を上記のエナンチオマー的に純粋な酸類を用いて行うことができる。この型の塩基性中間生成物の例は、

[0045]

【化21】

$$\begin{array}{c|c}
H & O \\
N & N - CH_2
\end{array}$$
(b)

$$\begin{pmatrix} H \\ N \\ N - CH_2 - \begin{pmatrix} C \end{pmatrix}$$
 (c)

$$CH_2 \longrightarrow N - CO \longrightarrow (d)$$

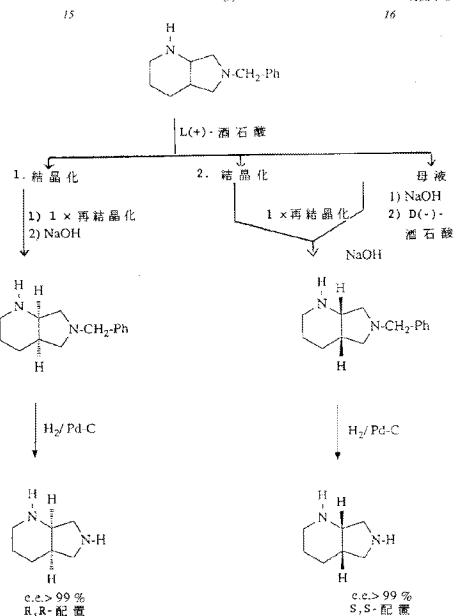
$$CH_2$$
 N
 N
 N
 N
 N
 N
 N

【0046】である。

【0047】下記の反応式では、8一ペンジルーシスー 2,8-ジアザビシクロ(4.3.0) ノナンから酒石酸 塩を介してのエナンチオマー類への分離およびそれらか 20 【化22】 らのエナンチオマー的に純粋なシスー2,8-ジアザビ

シクロ〔4.3.0〕ノナン類への転化が分割の例として 示されている:

[0048]



【0049】2.3、ラセミ体アミン類(a) および塩 基性中間生成物類(b)ー(e)の両者を、適宜アシル 化後に、クロマトグラフィーにより、偏光担体物質を用 いることにより、分離することができる(例えば、G. ブラシュケ(Blaschke)、アンゲヴァンドテ・ ヘミイ(Angew、Chem.)、92、14[1 980]参照)。

【0050】2.4、ラセミ体アミン類(a) および塩 基性中間生成物類(b)、(c)、(e)の両者を偏光 性アシル基との化学的結合によりジアステレオマー混合 物に転化することができ、それらを蒸留、結晶化または クロマトグラフィーによりジアステレオマー的に純粋な アミン類に分離することができ、そこからエナンチオマ 一的に純粋なアミン類を加水分解により単離することが できる。個光性アシル基に対する結合用の試薬例は、塩 化 α ーメトキシー α ートリフルオロメチルーフェニルア セチル、イソシアン酸メンチル、イソシアン酸 Dーもし くは $\mathbf{L} - \alpha$ ーフェニルーエチル、クロロ蟻酸メンチルま たは塩化棒脳 -1 0 ースルホニルである。

【0051】2.5.二環式アミン類(a)の合成工程では、非偏光性保護基の代わりに偏光性保護基を加えることもできる。この方法で、ジアステレオマー類が得られ、それらを分離することができる。例えば、シスー2.8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンの合成では、ベンジル基をRーもしくはSーαーフェニルエチル基により圏換することができる:

[0052]

【作23】

$$\begin{array}{c|c}
 & & & & \\
 & & & \\
 & & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & & \\
 & &$$

【0053】2、6、エナンチオマー的に純粋なアミン 類(VI)は、窒素上で保護基により保護されていなけ ればならないエナンチオマー的に純粋な先駆体、例えば (R,R) -stat (S,S) -3,4-9'EF0+9-ピロリジン、から合成することもできる。

【0054】エナンチオマー的に純粋な1ーベンジルー*

*3,4-ジヒドロキシーピロリジンから出発するエナン チオマー的に純粋なアミンの合成例として挙げられるも のは下記の反応式である:

[0055] 【化24】

【0056】R=例えば、(CH3)3C-O

a:H2、Pd/A-炭素

b:アシル化

ε: NaH, BrCH2COOC2Hs またはc: CH2= CH-CH2Br, NaH

d:LiBH4

d: 0a, N

a B H4

e:塩化トシル、N E t 3

f:ベンジルアミン、キシレン、還流

g:加水分解

h:Hz、Pd/A-炭素

例として挙げられる式(VI)の化合物類は、シスー2, 8-ジアザビシクロ〔4、3、0〕 ノナン、シスー2ーオ キサー5,8ージアザビシクロ〔4,3.0〕 ノナン、ト ランスー2ーオキサー5.8ージアザビシクロ〔4.3. 0) ノナン、S,S-2,8-ジアザビシクロ〔4.3. 0) ノナン、IR,6S-2-オキサ-5,8-ジアザビ シクロ〔4.3.0〕 ノナン、IS, 6 R-2-オキサー 5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナン、IR,6R 50 4-ジアザビシクロー〔2.2.2〕 オクタン (DABC

-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕 ノナン、18,68-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノナン。

【0057】 化合物 (VI) を例えば塩酸塩の如きそれら の塩類の形状で使用することもできるような(V)と (VI) の反応は好適には、希釈剤、例えばジメチルスル ホキシド、N,Nージメチルホルムアミド、Nーメチル ピロリドン、ヘキサメチル燐アミド、スルホラン、アセ 40 トニトリル、水、アルコール、例えばメタノール、エタ ノール、nープロパノールもしくはイソプロパノール、 グリコールモノメチルエーテルまたはビリジン、の中で 実施される。これらの希釈剤の混合物を使用することも できる。

【0058】使用できる酸結合剤は全ての一般的な無機 および有機酸結合剤である。これらには好適には、アル カリ金属水酸化物類、アルカリ金属炭酸塩類、有機アミ ン類およびアミジン類が包含される。特に適していると して個々に挙げられるものは、トリエチルアミン、1,

O)、1,8-ジアザビシクロー $\{5,4,0\}$ ウンデセ-7-ン $\{DBU\}$ または過剰のアミン $\{VI\}$ である。

【0.059】反応温度は比較的広い範囲内で変えることができる。一般的には、反応は約2.0-2.00での間で、好適には8.0-1.80での間で、実施される。

【0060】反応は常圧において実施することができるが、加圧下で実施することもできる。一般的には、それは約1-100パールの間の、好適には1-10パールの間の、圧力で実施される。

20

【0061】この方法を実施する時には、1モルの化合物(V)当たり1-15モルの、好適には1-6モルの、化合物(VI)が使用される。

【0062】ラセミ体類としてそしてエナンチオマー的に純粋なまたはジアステレオマー的に純粋な化合物類として使用することができる式(II)の化合物類の例として挙げられものは以下のものである:

[0063]

【表:】

10

w.1	22
F COOR H N H RI	2 (II)

	~ ` `			
<u>R</u> 1	R ²	X^{1}	Y	A
シクロプロピル	C_2H_5	H	CH_2	С-Н
F-CH ₂ CH ₂	H	1-{	CH ₂	C-F
シクロプロピル	C_2H_5	Į-Į	CH ₂	C-CI
シクロプロピル	H	H	CH ₂	C-OCH ₃
シクロプロビル	H	H	CH_2	C-CH ₃
シクロプロビル	C_2H_5	H	CH ₂	N
シクロブロビル	Ħ	Вт	CH ₂	C-F
シクロブロビル	H	Cl	CH ₂	C-F
シクロブロピル	Н	CH_3	CH_2	C-F
シクロブロビル	C_2H_5	NH_2	CH ₂	C-F
シクロプロビル	H	Н	O	С-Н
シクロプロピル	C_2H_5	H	O	C-F
С ₂ Н ₅	H	Н	O	C-Cl
CH ₃	Н	H	O	C-OCH ₃
シクロプロピル	Н	Н	O	C-CH ₃
シクロプロピル	H	Н	O	N
シクロプロビル	H	Br	O	C-F
シクロプロビル	H	CI	0	C-F
シクロプロビル	Ħ	CH3	O	C-F
シクロプロピル	H	NH_2	0	C-F
		Ţ	表2】	

[0064]

ì	24
$F \underbrace{ \begin{array}{c} X^1 & O \\ COOR^2 \end{array} }_{COOR^2}$	
H N A N R1	(H)

<u>R¹</u>	R ²	X ¹	<u>Y</u>	A
シクロブロピル	CH ₃	H	CH ₂	С-Н
シクロブロピル	CH ₂ CH ₂ OH	Н	CH_2	C-F
シクロプロピル	CH ₂ CH ₂ OH	H	CH_2	C-CI
シクロプロピル	H	Н	CH_2	C-OCH ₃
シクロブロピル	Н	H	CH ₂	C-CH ₃
シクロプロピル	Н	Ħ	CH_2	N
シクロブロビル	Н	Br	CH_2	C-F
シクロプロピル	Н	F	CH ₂	C-F
シクロプロピル	Н	CH ₃	CH_2	C-F
シクロプロピル	Н	NH_2	CH_2	C-F
シクロブロピル	Н	Н	O	С-Н
シクロブロピル	CH ₃	Н	O	C-F
C ₂ H ₅	Н	Н	O	C-CI
シクロプロピル	Н	Н	O	C-OCH ₃
シクロプロピル	H	H	O	C-CH ₃
シクロプロピル	Н	H	О	N
シクロプロビル	Н	Br	o	C-F
シクロブロピル	Н	CI	O	C-F
シクロプロビル	Н	CH_3	0	C-F
C_2H_5	Н	NH_2	O	C-F

【0065】 【表3】

$$F \xrightarrow{X^{1}} O COOR^{2}$$

$$H \xrightarrow{N} H$$

$$R^{1}$$

$$R^{2}$$

$$V = V^{1}$$

$$V$$

R ¹	R ²	X¹	Y	Α
シクロプロピル	Н	Н	CH_2	С-Н
シクロプロビル	Н	H	CH ₂	C-F
シクロプロピル	H	Н	CH ₂	C-CI
シクロプロピル	Н	Н	CH_2	C-OCH ₃
シクロブロピル	Н	Н	CH ₂	C-CH ₃
シクロプロピル	Н	H	CH ₂	N
シクロプロピル	Н	Br	$\mathrm{CH_2}$	C-F
シクロブロビル	Н	F	CH ₂	C-F
シクロプロビル	Н	CH ₃	CH_2	C-F
シクロプロピル	<u> </u>	NH_2	CH ₂	C·F
シクロプロピル	H	Н	0	С-Н
シクロプロビル	H	H	0	C-F
シクロブロビル	Н	H	0	C-CI
シクロプロビル	Н	Н	0	C-OCH ₃
シクロプロビル	H	Н	О	C-CH ₃
シクロブロビル	H	Н	О	N
シクロプロビル	Н	Br	O	C-F
シクロプロピル	H	F	O	C-F
シクロプロビル	H	CH ₃	0	C-F
シクロプロビル	Ħ	NH_2	0	C-F
		[]	長4】	

[0066]

	∠6
\mathbf{x}^1	
l O	
F、大	.2
人	
$H_{\perp} / M_{\perp} / M_{\perp} $	(H)
H_ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
N R	
↓ "H	
✓ ¹	

		_Y ^`		
Ri	R ²	ΧI	Υ	Α
シクロプロピル	Н	H	CH ₂	C-H
シクロプロビル	Н	Н	CH_2	C-F
シクロプロピル	н	Н	CH_2	C-Cl
シクロプロビル	H	Н	CH_2	C-OCH ₃
シクロプロビル	Н	Н	CH ₂	C-CH ₃
シクロプロビル	Н	H	CH_2	N
シクロプロピル	Н	Br	CH_2	C-F
シクロプロピル	Н	F	CH ₂	C-F
シクロプロビル	Н	CH ₃	CH_2	C ₂ F
シクロプロビル	H	NH_2	CH_2	C-F
シクロプロピル	Н	H	O	С-Н
シクロブロビル	Н	Н	0	C-F
シクロプロピル	Н	H	О	C-Cl
シクロプロピル	Н	Н	О	C-OCH ₃
シクロプロピル	Н	Н	0	C-CH ₃
シクロプロピル	1-1	Н	0	N
シクロプロビル	Н	Br	O	C-F
シクロプロピル	Н	F	О	C-F
シクロプロビル	Н	CH ₃	О	C-F
シクロプロピル	H	NH_2	0	C-F
		[7	長5】	

[0067]

29

$$\begin{array}{c|c}
X^1 & O \\
F & A & N \\
N & R^1
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
X^1 & O \\
COOR^2 \\
R^1 & R^2
\end{array}$$

R	ı R ²		χ^1	Y	A
2	4- ジフルオロフェエルH	,	Cl	CH ₂	C-F
2	4- ジフルオロフェニルH		CH ₃	CH ₂	C-F
2	4· ジフルオロフェニルH		Н	CH ₂	C-CH ₃
2	キ ・ジフルオロフェニルH		H	O	C-F
2	4·ジフルオロフェニルH		Н	O	C-Cl
4	·フルオロフェニルH		Н	О	СН
2	4 ジフルオロフェニル日		H	О	N
2	4. ジフルオロフェニル	ł	H	О	C-OCH ₃
2	4- ジフルオロフェエル?	1	H	О	C-CH ₃
2	4- ジフルオロフェニルF	Ī	Н	CH ₂	C-F
2	4- ジフルオロフェニル !	i	F	CH ₂	C-F
5	4- ジフルオロフェニルト	ŀ	H	CH_2	C-CI
2	,4- ジフルオロフェニルI	ł	Н	O	C-Cl
2	,4- ジフルオロフェニル !	4	Н	CH ₂	N
2	.4- ジフルオロフェニル]	F	H	0	N
2	,4- ジフルオロフェニル]	H	Н	O	C-H
	.4- ジフルオロフェニル(C ₂ H ₅	Н	O	C-F

【0068】構造式(III) および(IV)の出発化合物類は既知である。例として挙げられるものは、クロロアセトン、4一クロロー2一ブタノン、5一クロロー2ーベンタノン、1一プロモー2ーブタノン、塩化フェナシル、アクリル酸メチル、アクリル酸エチル、アクリロニトリル、メチルビニルケトン、アセチレンジカルボン酸ジメチル、プロピオン酸メチルおよびプロピオン酸エチルである。

【0069】(II) および(III) の反応は好適には、 希釈剤、例えばジメチルスルホキシド、N,Nージメチ ルーホルムアミド、Nーメチルピロリドン、ヘキサメチル燐アミド、スルホラン、アセトニトリル、水、アルコール、例えばメタノール、エタノール、ローブロパノールもしくはイソプロパノール、グリコールモノメチルエーテルまたはビリジン、の中で酸結合剤の存在下で実施される。これらの化合物類の混合物を使用することもできる。

【0070】使用できる酸結合剤は全ての一般的な無機 および有機酸結合剤である。これらには好適には、アル 50 カリ金属水酸化物類、アルカリ金属炭酸塩類、有機アミ

ン類およびアミジン類が包含される。特に適していると して個々に挙げられるものは、トリエチルアミン、1、 4ージアザビシクロー [2,2,2] オクタン (DABC O)、1,8-ジアザビシクロー〔5,4,0〕ウンデセ - 7 - ン (DBU) または過剰のアミン (VI) であ

【0071】 反応温度は比較的広い範囲内で変えること ができる。一般的には、反応は約20-200℃の間 で、好適には60-130℃の間で、実施される。

【0072】反応は常圧において実施することができる 10 る。薬学的に有用な塩類とは、例えば塩酸、硫酸、酢 が、加圧下で実施することもできる。一般的には、それ は約1-100パールの間の、好適には1-10パール の間の、圧力で実施される。

【0073】この方法を実施する時には、1モルの化合 物(目) 当たり1-15モルの。好適には1-6モル の、化合物(111)が使用される。

【0074】方法Bに従う(H)とミハエル受容体(I V)の反応は好適には、希釈剤、例えばアセトニトリ ル、ジメチルスルホキシド、N. Nージメチルホルムア ープロパノールもしくはイソプロパノール、またはグリ コールモノメチルエーテル、の中で実施される。

【0075】反応温度は比較的広い範囲内で変えること ができる。一般的には、反応は約20-150℃の間 で、好適には40-100℃の間で、実施される。

【0076】 反応は常圧において実施することができる が、加圧下で実施することもできる。一般的には、それ は約1-100パールの間の、好適には1-10パール の間の、圧力で実施される。

【0077】この方法を実施する時には、1モルの化合 30 物(目)当たり1-5モルの、好適には1-2モルの、

化合物(IV)が使用される。

【0078】本発明に従う化合物類の酸付加塩類の製造 は一般的方法で、例えばベタインを水性酸の中に溶解さ せそして例えばメタノール、エタノール。アセトンまた はアセトニトリルの如き水一混和性有機溶媒を用いて塩 を沈澱させることにより、実施される。等量のベタイン および酸を水中または例えばグリコールモノメチルエー テルの如きアルコール中で加熱し、そして次に蒸発乾調 するか、または沈澱した塩を吸引濾別することができ 酸、グリコール酸、乳酸、琥珀酸、クエン酸、酒石酸、 メタンスルホン酸、4ートルエンスルホン酸、ガラクツ ロン酸、グルコン酸、エンボン酸(embonic a cld)、グルタミン酸またはアスバルチン酸の塩類を 意味すると理解される。

32

【0079】本発明に従うカルボン酸類のアルカリ金属 またはアルカリ土類金属塩類は、例えばベタインを過剰 のアルカリ金属またはアルカリ土類金属水酸化物溶液の 中に溶解させ、未溶解のベタインを適別しそして濾液を ミド、アルコール、例えばメタノール、エタノール、n 20 蒸発乾涸することにより、得られる。薬学的に適してい る塩類は、ナトリウム、カリウムまたはカルシウム塩類 である。アルカリ金属またはアルカリ土類金属塩を例え ば硝酸銀の如き適当な銀塩と反応させることにより、対 応する銀塩類が得られる。

> 【0080】実施例中に挙げられている活性物質は別と して、例えば、下表に挙げられている化合物類(任意に シスーまたはトランス一形)も上記の方法により製造す ることができる:

[0081]

【麦6】

33

R ³	X^1	A
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ -CH ₂ -	Н	C-F
CH ₃ O ₂ C-CH=CH-	Н	C-F
NC-CH ₂ -CH ₂ -	H	C-F
5、メチル 2、オキソ・1、3、ジオキソル・4、イル・メチル	Н	C-F
CH ₃ -CO-CH ₂ -	Н	C-CI
5・メチル-2・オキソ・1.3、ジオキソル・4・イル・メチル	Н	C-Ci
CH ₃ -CO-CH ₂ -CH ₂ -	H	С-Н
CH ₃ -CO-CH ₂ -	Н	С-Н
$C_2H_5O_2C$ - CH_2 - CH_2	Н	С-Н
$C_2H_5O_2C$ - CH = C - $CO_2C_2H_5$	H	С-Н
CH ₂ O ₂ C-CH=CH-	Н	С-Н
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH≠CH-	F	C-F
CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	NH_2	C-F
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ CH ₂ -	NH_2	C-F
CH ₃ O ₂ C-CH=C-CO ₂ CH ₃	NH_2	C-F
$C_2H_5O_2C-CH_+=C-CO_2C_2H_5$	NH ₂	C-F

[0082] [表7]

35

R ³	X^1	A
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=CH-	NH ₂	C-F
CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	Н	N
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ -CH ₂ -	Н	И
NC-CH ₂ CH ₂ -	н	И
$C_2H_5O_2C$ - CH_1 = C - $CO_2C_2H_5$	H	N
CH ₃ O ₂ C-CH=CH-	H	N
CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	CH ₃	C-H
CH ₃ -CO-CH ₂ -	CH ₃	С-Н
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ CH ₂ -	CH ₃	С-Н
$C_2H_5O_2C$ - CH_2 - C - $CO_2C_2H_5$	CH ₃	€-Н
CH ₃ O ₂ C-CH=C-CO ₂ CH ₃	CH ₃	С-Н
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=CH-	CH ₃	C-H
CH ₃ O ₂ C-CH=CH-	CH ₃	C-F
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=C-CO ₂ C ₂ H ₅	CH ₃	N

【0083】 【表8】

37

R ³	XI	A
CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	Н	C-F
CH ₃ -CO-CH ₂ -	H	C-F
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ CH ₂ -	H	C-F
NC-CH ₂ CH ₂ -	H	C-F
CH ₃ O ₂ C-CH=CH-	Н	C-F
CH ₃ O ₂ C-CH=C-CO ₂ CH ₃	H	C-F
$C_2H_5O_2C-CH=C-CO_2C_2H_5$	H	C-F
5 - メチル - 2 - オキソ - 1, 3 - ジオキソル - 4 - イル・メチル	Н	C-F
CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	H	C-CI
CH ₃ ·CO·CH ₂ ·	Н	C-CI
C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ CH ₂ -	Н	C-Cl
NC-CH ₂ CH ₂ -	Н	C-CI
CH_3O_2C - CH = CH -	H	C-Cl
CH ₃ O ₂ C-CH=C-CO ₂ CH ₃	H	C-Cl
$C_2H_5O_2C-CH=C-CO_2C_2H_5$	Н	C-Cl
5 - メチル - 2 - オキソ - 1, 3 - ジォキソル · 4 · イル · メチル	H	C-Cl
【0084】 【表9】		

-- 20---

	R ³	X ¹	Α
-	$C_2H_5O_2C\cdot CH=C\cdot CO_2C_2H_5$	Н	C-H
	C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=CH-	Н	C-H
	CH ₃ O ₂ C-CH=CH-	F	C-F
	C ₂ H ₅ O ₂ C-CH ₂ -CH ₂ -	F	C-F
	C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=CH-	NH ₂	C-F
	$C_2H_5O_2C$ - CH_1 = C - $CO_2C_2H_5$	NH ₂	C-F
	CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	CH ₃	C-H
	C ₂ H ₅ O ₂ C·CH=CH-	CH ₃	C-H
	$C_2H_5O_2C$ - CH = C - $CO_2C_2H_5$	CH_3	C-H
	$CH_3O_2C-CH=C-CO_2C_2H_5$	CH ₃	N
	CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂ -	H	C-OCH ₃
	$C_2H_5O_2C$ -CH=CH-	Н	C-OCH ₃
	C ₂ H ₅ O ₂ C-CH=CH	H	N
	NC-CH ₂ CH ₂	Н	N
	CH ₃ -CO-CH ₂ CH ₂	Н	N

【0086】これらの有用な性質により、薬品中の化学療法活性物質として並びに無機および有機物質の、特に例えば重合体、潤滑剤、染料、繊維、皮革、紙および木材の如き全ての型の有機物質の、食品の、並びに水の、防腐用物質として、それらを使用することができる。

【0087】本発明に従う化合物類は非常に広い範囲の ェカーリスネ 微生物に対して活性である。それらにより、グラムー陰 50 とができた。

性およびグラムー陽性バクテリア並びにバクテリア様微 生物を抑制することができ、そしてこれらの病原体によ り生じる疾病を予防、軽減および/または治療すること ができる。

【0088】本発明に従う化合物類は潜伏性および抵抗性の微生物に対する増加した活性により特徴づけられている。潜伏性パクテリア、例えば検出可能な成長を示さないパクテリア、の場合には、該化合物はこれまでに知られている物質のものよりはるかに低い濃度において作用する。このことは使用量にだけでなく死滅速度にも関連している。グラムー陽性およびグラムー陰性パクテリア、特に黄色葡萄球菌、緑膿菌、エンテロコッカス・フェカーリスおよび大腸菌ではこの型の結果を観察することができた。

【0089】本発明に従う化合物類は匹敵する物質と比べて、敏感性が小さいと類別されるバクテリア、特に抵抗性の黄色葡萄球菌、大腸菌、緑膿菌およびエンテロコッカス・フェカーリス、に対して驚異的に増加した活性も示す。

【0090】本発明に従う化合物類はバクテリアおよび バクテリア様徴生物に対して特に活性である。従ってそれらはこれらの病原体により引き起こされる人間および 動物の局部的および全身的感染症の予防および化学療法 に特に非常に適している。

【0091】該化合物類は原虫症および寄生虫症の抑制 用にも適している。

【0092】本発明に従う化合物類は種々の薬学的調合*

*物中で使用することができる。好適な薬学的調合物として挙げられるものは、錠剤、コーテイング錠剤、カブセル、丸薬、類粒、坐薬、溶液、懸濁液および乳化液、ペースト、軟膏、ゲル、クリーム、ローション、粉末および噴霧液である。

42

【0093】下表は、黄色葡萄球菌に感染したハツカネ ズミモデル中でのシプロフロキサシンと比べての本発明 に従う化合物類の驚異的な利点を確認するものである。

【0094】表:ハツカネズミ中での黄色葡萄球菌感染 10 における活性(mg/kg)

Α

€

【0095】 【表10】

物質	p. o.	s.c.
シプロフロキサシン	8 0	8 0
実施例27	1.0	2.5
実施例29A	5	5
実施例31	1.0	1.0
実施例33	1.0	5
実施例35	2.5	2.5
知の構造的に同様な化合物	% (00	9 7]

本発明に従う化合物類は、既知の構造的に同様な化合物 類と比べて、特に嫌気性微生物で改良された抗パクテリ ア活性を示す。

[0096]

【化25】

30

実施例2 B中の如き本発明に従う成分:

R =

[0098]

*****[0099]

【化26】

、ヨーロッパ特許出願0,350,733 B

シプロフロキサシン

~

[0100]

【表11】

		化合物		
種類	菌株	A	В	C
バクテロイデス・	ES2S	0. 25	1	8
フラギリス	DSM2151	0. 25	0.5	4
クロストリジウム・	1024027	0. 125	0.5	0.5
パーフリンジェンス				
バクテロイデス・	DSM2079	0.5	2	8

--- 22----

シータイオタオミクロン

(MIC値、μg/ml;複数点接種器(デンレイ)中 での寒天溶液

試験;イソセンシテスト寒天)。

[0101]

【実施例】

先駆体の製造

実施例A

[0102] [化27]

【0103】1) (5,S] -8-ベンジル-2,8-ジ アザビシクロ〔4、3、0〕 ノナン

方法 [:

a) ジアステレオマー塩類の分離

3.0g(20ミリモル)のD-(-)-酒石酸を10m 1のジメチルホルムアミド中に80℃に加熱することに より溶解させ、そして溶液を2.16g(10ミリモ ル)のシスー8ーベンジルー2,8ージアザビシクロ 〔4.3.0〕 ノナンの3mlのジメチルホルムアミド中 溶液で処理した。混合物を0℃において1時間撹拌し、 生成物を吸引濾別し、そしてジメチルホルムアミドおよ びメトキシエタノールで洗浄した。

【0104】収量:1.93g、

融点:146-151℃、

$$[\alpha]^{28} = -19.3^{\circ} (c = 1, H_2O)$$

[0105]

ジアステレオマー的に純粋な [S.S] - D-酒石酸 8 ーペンジルー2,8ージアザビシクロ(4.3.0)ノナ ンが、メトキシエタノールからの1回の再結晶化により 得られた。

$$\begin{array}{c} \text{\{0 1 0 6\}} \\ \text{\{\alpha\}} \end{array} = -22.7^{\circ} \text{ (c=1, H2O)} ,$$

融点:148-154℃。

【0107】b) 塩基の遊離

40gの (S,S) - D-酒石酸8-ベンジル-2.8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕 ノナンを250m1の水中 に溶解させ、そして32gの45%強度水酸化ナトリウ ム溶液で処理した。沈澱した油を150mlのターシャ リーープチルメチルエーテル中に加え、水相を150m 1のターシャリーーブチルメチルエーテルで再び抽出 し、そして一緒にした有機相を硫酸ナトリウム上での乾 燥後に濃縮した。残渣を次に真空中で蒸留した。

【0108】収量:18.5gの [S,S] -8-ベンジ N-2,8-ジアザビシクロ〔4,3.0〕 ノナン、溯点:107-109℃/0.1ミリバール (α) ^{×4} == 17.3° (未希釈) 。

[0109]

方法日:75.0g(0.5モル)のL-(+)-酒石酸を [S,S] -2.8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノナン 10 250mlのジメチルホルムアミド中に80℃において 溶解させ、そして54.1g(0.25モル)のシスー8 $-ベンジルー2.8-ジアザビシクロ<math>\{4,3,0\}$ ノナ ンを75m1のジメチルホルムアミド中溶液状で滴々添 加した。混合物をゆっくり20℃に冷却し、そして結晶 懸濁液を1時間撹拌した。結晶 ({R,R} −L−酒石 酸-8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ〔4.3、 0〕ノナン)を吸引減別し、そして減液を回転蒸発器上 で濃縮した。残渣を500mlの水中に溶解させ、そし て方法1に記されている如くして63gの45%強度水 20 酸化ナトリウム溶液を用いて処理した。

> 【0110】収量:25.2gの(S,S)-8-ベンジ ルー2,8-ジアザビシクロ[4,3,0] ノナン。

> 【0111】該生成物は3.6gのR,R-エナンチオマ 一を含有していた(クロロ蟻酸メチルを用いる誘導化後 にガスクロマトグラフィーにより測定された)。

【0112】該化合物を方法Iに従いD-(-)-酒石酸 と反応させてジアステレオマー的に純粋な〔S,S〕-D-酒石酸-8-ベンジル-2.8-ジアザビシクロ 〔4.3.0〕 ノナンを与えた。この場合には再結晶化は 30 必要なかった。

【0113】方法!!!:73.6g(0.34モル)のシ ス-8 -ベンジル-2, 8 - ジアザビシクロ〔4.3. 0) ノナンを80-90℃において111mlのジメチ ルホルムアミド中溶液状で、102,9g(0,685モ ル) のL(+) - 酒石酸の343m1のジメチルホルムア ミド中溶液に滴々添加した。混合物に〔R,R〕-L-酒石酸-8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ〔4. 3.0) ノナンを種結晶として加え、そして18℃の内 部温度にゆっくり冷却した。結晶を吸引濾別し、そして ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンを種結晶として加 え、そしてそれが完全に結晶化するまで撹拌した。(方 法Iに記されている如き濃縮および遊離後に、〔S。 S! -8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ(4.3. 0〕 ノナンが D - 酒石酸を用いる精製により母液から得 られた)。生成物を次に吸引濾別し、ジメチルホルムア ミドおよびイソプロパノールで洗浄し、そして空気中で 乾燥した。結晶を88%強度エタノールから再結晶化さ せた。52gの〔S,S〕-L-酒石酸-8-ベンジル 50 -2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナン三水塩が

得られた。

[0114] 融点:201-204℃, (α)**=+5.2° (c=1、H₅O)。

[0115]

塩を方法 I に記されている如く処理(塩基の遊離)してエナンチオマー的に純しな [S.S] -8-ベンジルー2,8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノナンを与えることができた。

【0116】方法IV:

a) 〔1 S, 6 R〕 - 8 - ベンジル- 7, 9 - ジオキソー 2, 8 - ジアザビシクロ〔4, 3, 0〕 ノナンを与えるための、シス- 8 - ベンジル- 7, 9 - ジオキソー 2, 8 - ジアザビシクロ〔4, 3, 0〕 ノナンのエナンチオマー類の分離。

【0117】工程は優光性補助試業としてD-(一)一酒 石酸を用いる実施例B(方法II/a)と同様であるか、または工程は下記の如くであった:(実施例B、方法II/aからの)(1S,6R]-L-酒石酸-8-ペンジル-7,9-ジオキソー2,8-ジアザビシクロ(4.3、0)ノナンからの母液および洗浄液を一緒に濃縮し、残渣を水中に加え、そして溶液をトルエンで3回抽出した。トルエン相を廃棄した。水相を飽和炭酸水素ナトリウム溶液で7-8のpHが得られるまで処理し、次に塩化メチレンで4回抽出した。一緒にした塩化メチレン相を硫酸マグネシウム上で乾燥し、そして濃縮した。

【0118】収量:14.4g(最初に使用したラセミ体シス-8-ペンジル-7.9-ジオキソ-2.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンの理論値の60%)。

[0119]

[a] ** **-4.5° (c ** 5、エタノール)。

[0120]

実施例 B (方法H/a) と同様にして、8.6g (57 ミリモル)のD-(-)一酒石酸を用いて 14.4g (59ミリモル)のこれらを 120m H のエタノールから結晶化させた。

【0121】収量:8.9g(理論値の77%)の〔1 S.6R〕-L-酒石酸-8-ベンジル-7.9-ジオキ ソー2.8-ジアザビシケロ〔4.3、0〕ノナン。

[0122]

 $(\alpha)^{88} = -46.2^{\circ} (c = 0.5, 1N HC1)$.

[0123]

エタノール/グリコールモノメチルエーテル混合物から の再結晶化後に、さらに精製が行われた。

101241

 $(\alpha)^{33} = 59.3^{\circ} (c = 0.5, 1N HC1)$.

[0125]

46

融点:60-61℃、

[a] ** --- 22.2° (c --- 5, エタノール)、

10 [0127]

(24)

クロロ

嬢酸メンチルを用いる誘導化後に、ガスクロマトグラフィーにより96.6%eeのエナンチオマー

繊維

分割室された。

【0 1 2 8】b) [1 S, 6 R] -8-ベンジル-7, 9 -ジオキソ-2, 8-ジアザビシクロ [4, 3, 0] ノナンから [S, 5] -8-ペンジル-2, 8-ジアザビシクロ [4, 3, 0] ノナンへの還元

工程は実施例B(方法H、b)と同様であったが、出発 20 物質として〔1 S, 6 R〕-8-ベンジル-7, 9-ジオ キソ-2, 8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンを使 用した。

【0129】処理後に得られた粗製生成物はクロロ蟻酸メンチルを用いる誘導化後に〔S,S〕-8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ〔4、3、0〕ノナンであることが証明された。このようにして還元中にラセミ化が観察された。

【0130】2) (S,S) -2,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノナン

30 28.4g(0.131モル)の〔S,S〕-8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンを90でおよび90バールにおいて5時間わたり5.8gの活性炭(5%)上で190mlのメタノール中で水素化した。次に触媒を吸引適別し、メタノールで洗浄し、そして濾液を回転蒸発器上で濃縮した。残渣を分別により蒸留した。

【0131】収量:15.0g(理論値の90.5%)の 〔S.S〕-2.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナ ン

40 潮点:44-59℃/0.18ミリバール, (a)**=--2.29* (未着制)。

[0132]

e e > 9 9 %(モッシャー試業を用いる誘導化後にガス クロマトグラフィーにより測定された)。

【0133】方法V:3.75g(25ミリモル)のL -(+)-海石酸を最初に50ミルのジメチルホルムアミ ド中に80℃において加え、そして10.82g(50 ミリモル)のシス-8-ベンジル-2,8-ジアザビシ

50 クロ〔4.3.0〕 ノナンを15mlのジメチルホルムア

ミド中溶液状で滴々添加した。混合物に〔R,R〕ーし 一酒石酸-8ーペンジルー2,8ージアザビシクロ〔4,3.0〕ノナンの種結晶を加え、そして約72℃において1時間撹拌して種結晶生成を完了させた。次にこれを15℃に冷却し、結晶を吸引濾別し、そして各回毎に13m1のジメチルホルムアミドで2回洗浄した。一緒にした濾液を80℃に加熱し、そしてさらに3.75g(25ミリモル)のLー(+)一酒石酸で処理した。透明溶液が生成するまで混合物をさらに119℃に加熱し、そして〔S,S〕ーし一酒石酸ー8ーペンジルー2,8ーパジアザビシクロ〔4,3.0〕ノナンの種結晶を加えながら再び室温にゆっくり冷却した。結晶を吸引濾別し、ジメチルホルムアミド、2ーメトキシーエタノールおよびエタノールで連続的に洗浄し、そして空気中で乾燥した。

【0134】収量:9.59g、

融点:188-192℃。

【0135】結晶を95mlの80%強度エタノールから再結晶化させた。8、00gの112-118℃において発泡を伴って融解する〔S、S〕-し一酒石酸-8-ベンジル-2、8-ジアザビシクロ〔4、3、0〕ノナン三水塩が得られ、次にそれは再び涸化し、そして再び199-201℃において融解した。

$$[0136]$$
 $[\alpha]^{**} = 4.5^{\circ} (c = 1.2k)$.

[0137]

ee:98.0% (クロロ嬢酸メンチルを用いる誘導化後にガスクロマトグラフィーにより測定された)。

【0 1 3 8】実施例B

 $(R, R) = 2, 8 - \Im F \forall E \ni D = (4, 3, 0) / F$

[0139]

【化28】

【0140】1) (R,R) -8-ペンジル-2,8-ジ アザビシクロ(4,3.0) ノナン

$$(\alpha)_{D}^{23} = +22.3^{\circ} (c = 1, H_{Z}O),$$

塩 (44.5g) を実施例A、方法I bに記されている 如くして遊離塩基に転化させた。20.2gの (R,R) -8-ベンジル-2.8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノナンが得られた。

【0 | 4 | 】沸点: | 0 7 - 1 | 1 | ℃/0, 0 4 ミリバール

10 [0142]

(25)

方法目:

a) {1 R,6 S} -8-ベンジル-7,9-ジオキソー2,8-ジアザビシクロ [4,3,0] ノナンを与えるためのシス-8-ベンジル-7,9-ジオキソー2,8-ジアザビシクロ (4,3,0) ノナンの分離

三首フラスコ中で24.1g(98.8ミリモル)のシスー8ーベンジルー7,9ージオキソー2,8ージアザビシクロ(4.3.0)ノナンを410m1のエタノールおよ

び25m1のアセトニトリルの混合物の中で撹拌しながら加熱選流した。14.8g(98.8ミリモル)のLー(十)一番石酸を次に一度に加えた。全ての酒石酸が完全に溶解した後に初めて加熱を停止したが、フラスコは油浴中に置かれていた。溶液がもはや沸騰しなくなるまで系を冷却した時に、撹拌器を停止した。結晶化および種結晶の添加を50℃の温度において行った。一夜撹拌しそして室温に冷却した後に、沈澱した結晶を吸引濾別し、少量のエタノール/石油エーテル(1:1)で洗浄し、そして80℃で2時間乾燥した。

 (0 【0143】収量:9.8g(理論値の50%)の〔1 R,65〕-L-酒石酸-8-ベンジル-7,9-ジオキ ソー2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナン、 〔α〕** ** ** + 47.7°(c *** 0.5、1N HC1)。

[0144]

該化合物をエタノールおよびグリコールモノメチルエー テルの混合物から2回再結晶化させることによりさらに 精製することができた。

[0145]

 $\theta = (\alpha)^{33} + 58.6^{\circ} \text{ (c} = 0.5, 1N HC1).}$

³H-NMR (DMSO): 7.22-7.35 (2m,2 H,アリールーH): 4.55 (s,2H,ペンジルーCH ²): 4.28 (s,2H,酒石酸-CH): 3.91 (d, ¹H,1-CH); 2.97 (dd,1H,6-CH): ²2.53-2.66 (m,2H,3-CH₂); 1.78および1.68 (2m,2H,5-CH₂); 1.42および1. ²8ppm (2m,2H,4-CH₂)。

50 [0 1 4 7] C18 H22 N2 O8 (3 9 4)

計算値: C 5 4, 4、H 5, 6、N 7, 1、O 3 2, 5 実測値: C 5 4, 7、H 5, 8、N 7, 1、O 3 2, 4 無水構造の測定はX-線構造分析により行われた。

[0148]

【0149】3.6g(9.1ミリモル)のこの方法で得られたジアステレオマー的に純粋な酒石酸塩を水中に溶解させて塩基を遊離させ、そして7-8のpHが得られるまで飽和炭酸水素ナトリウム溶液で処理した。水溶液を各回毎に20mlの塩化メチレンで4回抽出した。一緒にした塩化メチレン相を硫酸マグネシウム上で乾燥し、そして濃縮した。

【0150】収量:2.2g(理論値の99%)の(1R,6S)-8-ベンジル-7.9-ジオキソ-2,8-ジアザビシクロ(4.3.0)ノナン、

融点:60-61℃,

 $\{\alpha\}^{**}=+21.8^{\circ}\ (c=5, \pm 9/-n)$.

[0151]

クロロ蟻酸メンチルを用いる誘導化後にガスクロマトグラフィーにより、93.8%eeのエナンチオマー過剰 量が測定された。

【0152】b) (1R,6S) -8-ベンジル-7,9 -ジオキサー2.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンから (R,R) -8-ベンジル-7,9-ジオキサー 2.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンへの愛元 加熱されたフラスコ中で、0.34g(9ミリモル)の 水素化アルミニウムリチウムをNz下で18mlの無水 テトラヒドロフラン中に加え、そして0.73g(3ミ リモル)の〔1 R, 6 S〕 - 8 - ベンジル- 7, 9 - ジオ キサー2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンを3 mlの無水テトラヒドロフラン中溶液状で滴々添加し た。混合物を次に還流縮台を伴いながら16時間にわた り沸騰させた。10m1のテトラヒドロフラン中の0. 34m1の水、0.34m1の10%強度水酸化ナトリ ウム溶液および1.02mlの水の滴々添加により処理 を行った。沈巖を吸引練別し、テトラヒドロフランで洗 浄し、そして濾液を濃縮した。0.7gの粗製 (R,R) -8-ベンジル−2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンが残った(G C純度:99%)。

【0153】クロロ蟻酸メンチルを用いるエナンチオマー純度のガスクロマトグラフィー測定中にラセミ化を測定することはできなかった。

【0154】2) (R,R) -2,8-ジアザビシクロ

[4.3.0] ノナン

19.4g(0.09モル)の(R,R)-8ーベンジル-2.8ージアザビシクロ(4.3.0)/ナンを実施例A、2の工程に従い水素化した。

【0155】収量:9.61g(85%)の(R,R)-2,8-ジアザビシクロ(4.3.0)ノナン、

満点:45-58℃/0.08ミリバール、 [α]** = +2.30° (未希釈)。

[0156]

実施例C

10

(26)

<u>(S,S) -2-メチル-2,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノナン</u>

1) {S,S} -8-ベンジル-2-メチル-2,8-ジ アザビシクロ {4.3.0} ノナン

[0157]

【化30】

【0158】43.2g(0.2ミリモル)の〔S.S〕
-8-ベンジル-2,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕
ノナンを20m1の37%ホルムアルデヒド溶液、40m1の水および24gの酢酸で処理し、そして混合物を2gの活性炭上のバラジウム(5%)上で20℃および20パールにおいて10時間にわたり水素化した。次に30触媒を吸引濾剤し、濾液を炭酸カリウムを用いてアルカリ性とし、そして生成物をターシャリーーブチルメチルエーテルで抽出した。硫酸ナトリウム上で乾燥した後に、混合物を濃縮しそして残渣を真空中で蒸留した。

[0159] 収量:14.8g、

沸点:114-124℃/0.14ミリバール。

【0160】2) (8,8) -2-メチル-2.8-ジア ザビシクロ (4.3.0) ノナン

12.9g(56ミリモル)の(S,5)-8-ペンジル -2-メチルー2,8-ジアザビシクロ(4.3.0)ノ 40 ナンを1.1gの活性炭上のパラジウム(5%)の上で 90℃および90パールにおいて90m1のメタノール 中で水素化した。次に混合物を濾過し、濾液を回転蒸発 器上で濃縮し、そして残渣を真空中で蒸留した。

【0.16.1】収量: 5.5gのエナンチオマー的に純粋な $\{S,S\}$ -2-メチル-2.8-ジアザビシクロ $\{4.3.0\}$ ノナン $\{Ey$ シャー試薬を用いる誘導化により測定)、

沸点:78-81℃/14ミリバール。

【0162】実施例D

6 (R, R) −2−メチル−2,8−ジアザビシクロ(4.

-- 26---

3.0) ノナン 【0163】 【化31】

【0165】収盤: 4.9gの (R,R) -2-メチルー2,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノナン (モッシャー試薬を用いる誘導化により測定)、

沸点:30-33℃/0.12ミリバール。

【0166】実施例E

<u>シスー7,9ージオキソー8ー([15]-1ーフェニル</u> -エチル)-2,8ージアザビシクロ[4.3,0]ノナン

【0167】 【化32】

【0168】1) N-((1S)-1-フェニルーエチ

ル)ビリジンー2、3ージカルボキシイミド
74.5g(0.5モル)の無水ビリジンー2、3ージカルボン酸を最初に20℃において500mlのジオキサン中溶液に加え、そして60.5g(0.5モル)の5ー(ー)ー1ーフェニルーエチルアミンを滴々添加すると、温度が33℃に上昇した。混合物をさらに1時間撹拌し、次に回転蒸発器上で濃縮し、そして残存溶媒を40℃/0.1ミリバールにおいて除去した。残渣を245g(2.4モル)の無水酢酸中に加え、溶液を4.9g(0.06モル)の無水酢酸中に加え、溶液を4.9g(0.06モル)の無水酢酸ナトリウムで処理し、そして100℃で1時間撹拌した。冷却後に、混合物を良く搅拌しながら1gの氷水上に注ぎ、沈澱を吸引濾剤し、冷水およびヘキサンで洗浄しそして空気中で乾燥した。粗製生成物(114g、融点:112-114℃)を285mlのメタノールから再結晶化させた。

【0169】収量:96.3g(76%)、

離点:115-117℃、 〔α〕 ** -- ~ 46.9° (c -- 2、エタノール)。

[0170]

2) シスー7,9ージオキソー8ー([1S]-1ーフェニルーエチル)-2,8ージアザビシクロ(4.3.

0) ノナン

79.7g(0.316モル)のN-($\{18\}$ -1-フェニルエチル)ピリジン-2.3-ジカルボキシイミドを10gの活性炭上のパラジウム(5%強度)の上で90%100パールにおいて600mlのテトラヒドロフラン中で水素化した。水素吸収の完了後に触媒を識別し、そして濾液を完全に濃縮した。83.7gの粘着性残渣が得られた。

32

【0171】純度:95%強度、

70 ¹H-NMR (CDC13、200MHz):1.4-1. 7 (m,3H);1.82おば1.83(2d,3H); 1.9-2.05(m,1H);2.28(度いs,1 H);2.54-2.86(m,3H);3.77(d,1 H);5.39(q,1H);7.24-7.48ppm (m,5H)。

【0172】実施例F

シスー2ーオキサー5,8ージアザビシクロ〔4.3、

0〕 フナン

[0173]

0 【作33】

【0174】1)トランスー1ーペンゾイルー3ープロモー4ー(2ーヒドロキシエトキシ)ーピロリジン95g(0.55モル)の1ーベンゾイルー3ーピロリンを380gのエチレングリコール中に溶解させ、そして101g(0.57モル)のNープロモ琥珀酸イミド30を5gずつ2時間にわたり加えた。次に混合物を室温で一夜撹拌し、水中に注ぎ、塩化メチレンで抽出し、溶液を硫酸マグネシウム上で乾燥しそして濃縮した。残造(188g)をシリカゲル上で酢酸エチルを用いてクロマトグラフィーにかけた。

【0175】収量:136.5g(理論値の78%)、 G Cによる純度:99%。

【0176】2)トランスー1ーベンゾイルー3ープロモー4ー(2ートシルオキシエトキシ)ピロリジン92g(0.239モル)のトランスー1ーベンゾイル40一3ープロモー4ー(2ーヒドロキシエトキシ)ーピロリジン、32g(0.316モル)のトリエチルアミンおよび1gの4ージメチルアミノピリジンを750m1のトルエン中に溶解させ、そして450m1のトルエン中の60g(0.31モル)の塩化トシルを滴々添加した。混合物を室温で2日間撹拌し、水を加え、水相を分離し、そしてトルエンで抽出した。トルエン溶液を10%強度塩酸で洗浄し、硫酸マグネシウム上で乾燥し、濃縮し、残渣を酢酸エチル中に溶解させ、そして溶液をシリカゲルを通して濾過した。濾液を濃縮した。

50 【0177】収量:125g(理論値の91%)。

【0178】 薄層クロマトグラフィーは均質な化合物を 示した。

【0179】3) シスー8ーペンゾイルー5ーベンジル -2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕ノ ナン

124g(0.265モル)のトランスー1ーベンゾイ ルー3ープロモー4ー(2ートシルオキシエトキシ)ピロ リジンを選流下で86g(0.8モル)のベンジルアミ ンと共に1.5リットルのキシレン中で一夜加熱し、ベ ンジルアミンの塩類を吸引濾別し、そして濾液を濃縮し

【0180】粗収量:91.2g。

【0181】4)シスー5ーベンジルー2ーオキサー 5,8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕 ノナン 91g(0.265モル)のシス-8-ベンゾイル-5 ーベンジルー2ーオキサー5.8ージアザビシクロ〔4. 3.0) ノナンを還流下で200m1の濃塩酸および1 40mlの水と共に一夜加熱した。冷却後に、安息香酸 を吸引適別し、濾液を濃縮して量を半分とし、溶液を炭 酸カリウムを用いてアルカリ性とし、クロロホルムで抽 20 出し、抽出物を炭酸カリウム上で乾燥し、濃縮し、そし て残渣を蒸留した。

【0182】収量:30.7g(理論値の48.8%)、 沸点:134-142℃/0.6ミリバール、 G C による純度: 92%。

【0183】5)シスー2ーオキサー5,8ージアザビ シクロ〔4.3.0〕 ノナン二塩酸塩

180mlのエタノール中の26g(0.11モル。9 2%強度)のシスー5ーベンジルー2ーオキサー5,8 ジアザビシクロ〔4、3、0〕 ノナンおよび19mlの 30 せずに15、6Rーエナンチオマーの製造用に使用し 騰塩酸を3gのパラジウム/活性炭(10%Pd)の中 で100℃および100バールにおいて水素化した。 触 媒を吸引濾剤し、濾液を濃縮し、そして分離した結晶を 乾燥器中で五酸化燐の上で乾燥した。

【0184】収量:17.1g (理論値の77%)、 融点:244-250℃。

【0185】 実施例 G

シスー5ーベンジルー2ーオキサー5,8-ジアザビシ クロ〔4、3.0〕 ノナンのエナンチオマー類の分離 150.1g(1モル)のD-(-)-酒石酸を700m 1のメタノール中に60-65℃において加え、そして 218.3g(1モル)のシスー5ーベンジルー2ーオ キサー5,8-ジアザビシクロ [4,3,0] ノナンを3 00mlのメタノール中溶液状で適々添加した。溶液が 数り始めるまで混合物を次にゆっくりと約49℃まで冷 却し、そして前記の実験で得られた1R.6S-D-酒 石酸-5-ペンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシ クロ〔4、3、0〕 ノナンの結晶を種結晶として加え、種 結晶を生成させるためにこの温度において30分間撹拌 し、そして次に0-3℃にゆっくりと冷却した。吸引濾 50 34

別後に、固体を0℃に冷却されている200mlのエタ ノールおよび100mlのメタノールの総合物で洗浄 し、次に各回毎に300mlのエタノールで3回洗浄 し、そして次に生成物を空気中で乾燥した。

【0186】収量:160.3gの1R,65-酒石酸-5-ペンジルー2-オキサー5,8-ジアザビシクロ 〔4.3.0〕 ノナン(理論値の87%)、

融点:174.5-176.5℃、

ee>97%(1-フェニルーエチルーイソシアネート を用いる誘導化およびHPLC分析後)。

[α] ** = + 2 4.0° (c = 1, メタノール)。

[0187]

156.9gの1回目の結晶を1,500m1のメタノー ルから再結晶化させた。

収量:140.0g(回収率89%)、

[0188]

1回目の結晶化からのメタノール性母液を回転蒸発器上 で濃縮した。シロップ状残渣 (236g) を500m1 の水中に溶解させ、250mlの6N水酸化ナトリウム 溶液を用いてpH12-13に調節し、各回毎に350 m I のトルエンで3回抽出し、抽出物を炭酸ナトリウム 上で乾燥し、そして真空中で濃縮した。ガスクロマトグ ラフィー検査によると97%のシスー5ーペンジルー2 ーオキサー5,8ージアザビシクロ〔4,3.0〕 ノナン を含有している113.1gの褐色油である残渣を精製

【0189】113.1g(0.518モル)の粗濃縮さ れた1R,6S-5-ペンジル-2-オキサ-5,8-ジ アザビシクロ (4.3.0) ノナンを155mlのメタノ ール中に溶解させ、そして77.8g(0.518モル) のしー(+)-酒石酸の363mlのメタノール中沸騰溶 液に滴々添加した。滴々添加中に結晶マグマが徐々に生 成した。混合物を60℃において1時間撹拌し、そして 次に2時間にわたり0℃にゆっくり冷却した。結晶を吸 引濾別し、0℃に冷却されているエタノールおよびメタ ノールの2:1混合物で洗浄し、そして次にエタノール で3回洗浄した。次に生成物を空気中で乾燥した。

【0190】収量:145.5gの15,6R-L-酒石 酸-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシケ ロ〔4.3.0〕 ノナン(理論値の79%)、

融点:174.5−176.5℃、

ee>97%(1-フェニルーエチルを用いる誘導化お よびHPLC分析後)。

[a] ** == 24.0° (c=1, メタノール)。

[0191]

55

エナンチオマー的に純粋な塩基類の分離:144g (0、39モル)の1S,6R一酒石酸-5ーペンジルー2ーオキサー5,8ージアザビシクロ(4、3.0)ノナンを250mlの水中に溶解させ、そして175ml(1、05モル)の6N水酸化ナトリウム溶液を加えた。沈緩した油を500mlのトルエン中に加え、有機相を分離し、そして水相を各回毎に250mlのトルエンを用いてさらに3回抽出した。一緒にした有機相を炭酸ナトリウム上で乾燥し、濾過し、そして回転蒸発器上で濃縮した。残渣を20cmビグルーカラムを通して高真空下で蒸留した。

【0192】収量:81.6g (理論値の96%)の1 S,6R-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビ シクロ〔4.3.0〕 ノナン、

溯点:1 2 0 − 1 3 9 ℃ / 0. 0 4 − 0. 0 7 ミリバー ル、

純度:ガスクロマトグラフィーにより測定されて100 %、

密度:8=1.113g/ml, [a]**==60.9*(未発制)。

[0193]

蒸留残渣: 0.12 g。

【0194】同じ方法で、76.0g(理論値の93%)の1R.6S-5-ベンジル-2-オキサ-5.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンが139.2g(0、376モル)の1R,6S-酒石酸-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンから得られた。

[0196]

シスー5ーベンジルー2ーオキサー5.8ージアザビシ クロ (4.3.0) ノナンに関して記されているエナンチ オマー類の分離をトランスー5ーペンジルー2ーオキサー5,8ージアザビシクロ (4.3.0) ノナンを用いて 同様にして実施して、R,RーおよびS,Sー5ーベンジルー2ーオキサー5,8ージアザビシクロ (4.3.0) ノナンを与えることもできた。

【0197】 実施例H

1) 35,45-4-アリルオキシー3-ヒドロキシピロリジン-1-カルボン酸ターシャリーーブチル

16.5g(0.55モル)の80%強度NaHを最初に500mlの無水ジオキサン中に加え、そして無水ジオキサン中に熱時に溶解されている107.5g(0.53モル)のS,S-ジヒドロキシピロリジン-1-カルボン酸ターシャリーーブチル(ドイツ公告明細書3,403,194)の溶液を60℃において滴々添加した。濯

36

合物を60でにおいて1時間撹拌し、そして次に64g (0.63モル)の臭化アリルを滴々添加した。次に混合物を60でにおいて3時間撹拌した。それを濃縮し、そして残渣を200mlの水および600mlのメタノールの中に溶解させた。溶液を各回毎に200mlのペンタンで3回抽出し、メタノールを回転蒸発器上でストリッピングさせ、残渣を200mlの水で希釈し、そして混合物を塩化メチレンで抽出した。塩化メチレン溶液をMgSO4上で乾燥し、濃縮し、そして残渣をターシャリーーブチルメチルエーテル(200ml)中に溶解させた。9gの出発物質(44ミリモル)が一夜で結晶化した。エーテル溶液を濃縮し、そして蒸留した。

【0198】収量:83g(回収された出発物質および ジアリルエーテルに関して理論値の80%)。

沸点:149℃/0.7ミリパール-159℃/0.9ミリパール。

【0199】蒸留物は5%の出発物質および4%のジア リルエーテルを含有していた。

【0200】ペンタン抽出物は17gの15%の希望す 20 る生成物および84%のジアリルエーテルの混合物を生成した。

[0202]

2)3S,4S-3-ヒドロキシ-4-(2-ヒドロキシエトキシ)ーピロリジン-1-カルボン酸ターシャリーーブチル

64g(0.24モル、91%強度)の80%強度35,
30 4S-4-アリルオキシー3-ジドロキシピロリジンー
1-カルボン酸ターシャリーーブチルを250m1のメ
タノール中に溶解させ、0℃に冷却し、そしてヨウ化カ
リウム溶液を含有している連結されている洗浄瓶がオゾ
ンの発生を示すまでオゾンを溶液中に通し、そしてこの
ようにして反応が完了した。オゾンの残渣を窒素流を用
いて処理し、次に生じたオゾニドを0℃において1gず
つ加えられた18gの水素化ホウ素ナトリウムを用いて
0℃において還元した。次に混合物を室温で一夜撹拌
し、濃縮し、残渣を水で希釈し、混合物を20gの炭酸
カリウムで処理し、そして各回毎に100m1の塩化メ
チレンで5回抽出した。有機溶液を硫酸マグネシウム上
で乾燥し、そして濃縮した。

【0203】収量:65.8g(理論値の100%)。

【0204】生成物はガスクロマトグラフィーによると91%強度であった。

[0205]

(α) ** ····· 1 5.2° (c ···· 0.97, メタノール)。

[0206]

50 3) 3 S, 4 S - 1 - ターシャリーープトキシカルボニ

ルー3ートシルオキシー4ー(2ートシルオキシエトキ シ)ーピロリジン

2.7g(10ミリモル、91%強度)の35,45-3 ーヒドロキシー4ー(2ーヒドロキシエトキシ)ーピロ リジンー1ーカルボン酸ターシャリーーブチルを最初に 30mlの塩化メチレン中に加え、6mlの45%強度 水酸化ナトリウム溶液および0.1gの塩化ベンジルト リエチルアンモニウムを加え、そして2.86g(20 ミリモル)のエチルトシルの10mlの塩化メチレン中 溶液を次に冷却しながら適々添加した。次に混合物を室 温でさらに1時間撹拌し、20mlの水中に注ぎ、有機 相を分離し、そして水相を塩化メチレンで抽出した。有 機相を硫酸マグネシウム上で乾燥し、そして濃縮した。

【0207】収量:5g (理論値の90%)。

【0208】生成物は薄層クロマトグラフィーによると 均質であった。

【0209】4) 15,6R-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロー〔4.3.0〕 ノナン-8-カルボン酸ターシャリー--ブチル

87g(156ミリモル)の35,45-1-ターシャリーープトキシカルボニルー3ートシルオキシー4ー(2ートシルオキシエトキシ)ーピロリジンを運流下で58g(0.54モル)のペンジルアミンと共に1リットルのキシレン中で一夜加熱した。混合物を冷却し、沈澱したベンジルアミンの塩類を吸引識別し、そして残渣を激縮した。

【0210】収量:43g(理論値の58%)。

【0211】生成物は薄層クロマトグラフィーによると 均質であった。

【0212】5)1S,6R-5-ペンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロー {4.3.0} ノナン43g(90ミリモル)の1S,6R-5-ベンジルー2-オキサー5,8-ジアザビシクロー [4.3.0] ノナン-8-カルボン酸ターシャリーーブチルを巡流下で35mlの機塩酸および35mlの水の中で二酸化炭素の発生が完了するまで加熱した。混合物を炭酸カリウムを用いてアルカリ性とし、クロロホルムで抽出し、有機溶液をMgSO4上で乾燥し、濃縮し、そして残渣を20cmビグルーカラムを通して2回蒸留した。

【0213】収置:11.1g(理論値の55%)、 沸点:108-115℃/0.07ミリパール、 [α] **=---58.3** (未希釈)。

[0214]

実施例Ⅰ

1)3R,4R-アリルオキシー3-ヒドロキシピロリジン-1-カルボン酸ターシャリーーブチル 反応を実施例H1)と同様にして、R,R-3,4-ジヒドロキシピロリジン-1-カルボン酸ターシャリーーブチルを用いて行った。 38

[0216]

生成物はガスクロマトグラフィーによると95%強度であった。

【0217】2)3R,4R-3-ヒドロキシ-4-(2-ヒドロキシエトキシ)-ビロリジン-1-カルボン酸ターシャリーープチル

70 反応を実施例H2)と同様にして、3R,4Rーアリル オキシー3ーヒドロキシピロリジンー1ーカルボン酸タ ーシャリーーブチルを用いて行った。

【0218】収量:理論値の99%(0.175モルバッチ)。

[a] ** ***+16.5° (c *** 0.94、メタノール)。 [0219]

3) 3 R, 4 R-1-ターシャリー-ブトキシカルボニ ル-3-トシルオキシ-4-(2-トシルオキシエトキ 20 シ) -ピロリジン

反応を実施例H3)と同様にして、3R,4R-3-ヒ ドロキシー4-(2-ヒドロキシエトキシ)-ピロリジ ン-1-カルボン酸ターシャリー-ブチルを用いて行っ た。

【0220】収量:定量的(0.11モルバッチ)、 4)1R,6S-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジ アザビシクロ〔4.3.0〕ノナン-8-カルボン酸ター シャリー-ブチル

反応を実施例H4)と同様にして、3 R.4 R-1-タ 30 ーシャリーープトキシカルボニルー3ートシルオキシー 4-(2-トシルオキシエトキシ)ーピロリジンを用い て行った。

【0221】収量:理論値の40%(0.1モルバッチ)。

【0222】5)1R,68-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナン反応を実施例H5)と同様にして、1R,68-5-ベンジル-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナン-8-カルボン酸ターシャリー-ブチルを用がて行った。

【0223】収量:理論値の63%(40ミリモルバッチ)、

瀬点:120℃/0.06ミリバール。

【0224】生成物はガスクロマトグラフィーによると95%強度であった。

【0225】 〔a〕**=+58.5° (宋衛鞅)。

[0226]

50 実施例」

1) 1 S, 6 R - 2 - オキサー 5, 8 - ジアザビシクロ (4, 3, 0) ノナン二塩酸塩

7.5g(34.4ミリモル)の15,6R-5-ベンジルー2ーオキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノナンを100℃および100パールにおいて1gのパラジウム/活性炭(10%Pd)の上で200mlのエタノール中で7mlの濃塩酸を添加しながら水素化した。触媒を吸引濾別し、水で5、6回洗浄した。水性濾液を濃縮すると、残渣が結晶化した。結晶をエタノールで充分飽和させ、吸引濾別し、そして空気中で乾燥した。

【0227】収量:4.6g(理論値の66.5%)、 融点:233-235℃。

【0228】2)15,6R-2-オキサー5,8-ジア ザビシクロ〔4.3.0〕ノナン

59g(0.27モル)の1S,6R-5-ペンジル-2 ーオキサー5,8-ジアザビシクロ(4.3.0)/ナンを120℃および120パールにおいてパラジウム/活性炭(10%Pd)の上で500mlのエタノール中で水素化した。触媒を吸引濾別し、濾液を濃縮し、そして残渣を蒸留した。

【0229】収量:32.9g(理論値の95%)、 沸点:65℃/0.03ミリバール、

e e 値:≧ 9 9 . 5 %(モッシャー試薬を用いる誘導化 後)。

【0230】<u>実施例K</u>

1) 1 R, 6 S - 2 - オキサー 5, 8 - ジアザビシクロ 〔4, 3, 0〕 ノナン二塩酸塩

【0231】収量:理論値の77%(23.8ミリモルバッチ)、

融点:230-232℃。

回転: (α)** ** + 103.7° (c **1、CHC1_s)。

[0237]

2) 1 R, 6 S - 8 - トシルー2 - オキサー5, 8 - ジア 40 た。触媒を吸引激別し、濾液を濃縮し、そして残渣を3 ザビシクロ (4,3,0) ノナン 0 m l のトルエンから再結晶化させた。

13g (33.6ミリモル) の1R,6S-5- (1R-フェニルエチル) -8-トシル-2-オキサ-5.8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノナンを100℃および1※

回転: $[\alpha]^{**}$ \longrightarrow \div 17.5° (c \longrightarrow 1.21, CHC 1_3).

[0239]

3) 1 R, 6 S - 2 - オキサ-5, 8 - ジアザビシクロ [4.3.0] ノナン二臭化水素酸塩

を25mlの水酢酸中33%強度臭化水素溶液に溶解させ、5gのフェノールを加え、そして混合物を室温で一 夜機拌した。それをジイソプロビルエーテルで希釈し、

ーオキサー5,8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノナン

*【0232】2)1R,68-2-オキサー5.8-ジア ザビシクロ [4.3.0] ノナン

60

反応を実施例 **J** 2) と同様にして、**1** R, 6 S - 5 - ペンジル - 2 - オキサ - 5, 8 - ジアザビシクロ **4** . 3、0 〕 ノナンを用いて行った。

【0233】収量:理論値の93.3%(1.58モルバッチ)、

沸点:63-65℃/0.03ミリバール、

回転: (α) ²³=-8.4" (未希釈)、

e e 値:≥99,5% (モッシャー試薬を用いる誘導化後)。

【0234】同様にして、1R,6R-または1S,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4、3.0〕 / ナンが得られた。

【0235】実施例し

(33)

10

1 R, 6 S - 2 - オキサー 5, 8 - ジアザビシクロ [4.3.0] ノナン二臭化水素酸塩

性炭(10%Pd)の上で500mlのエタノール中で 1)1R,65-5-(1R-フェニルエチル)-8-水素化した。触媒を吸引濾別し、濾液を濃縮し、そして 20 トシルー2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3. 残渣を蒸留した。 0)ノナン

101.8g(0.196モル)のトランスー3ープロモー1ートシルー4ー(2ートシルオキシエトキシ)ービロリジンおよび72g(0.584モル)のRー(+)ー1ーフェニルエチルアミンを900mlのキシレン中で還流下で一夜加熱した。冷却された溶液を2N水酸化ナトリウムで洗浄し、炭酸カリウム上で乾燥し、乾燥剤を除去し、そして溶媒を濃縮した。冷却すると、結晶が残渣から沈緩し、それを吸引濾剤し、そして750mlの石30油エーテルおよび200mlのnーブタノールの混合物から再結晶化させた。

【0236】収量:15g(理論値の39.6%の光学的に純粋な物質)、

融点:188°C。

※00パールにおいて2.5gのパラジウム/活性炭(10%Pd)の上で200mlのエタノール中で水素化した。触媒を吸引濾別し、濾液を濃縮し、そして残渣を30mlのトルエンから再結晶化させた。

【0238】収量: 7.5 g(理論値の79%)、 融点: 160-161℃、

[0240] 収量:5.5g。

【0241】モッシャー試薬を用いる誘導化およびガス クロマトグラフィー分析は、1種の検出可能なエナンチ オマーだけを示した(e e ≥ 99.5%)。

【0242】 実施例M

5-プロモー1-シクロプロピルー6,7,8-トリフル オロー1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカ ルボン酸

[0243]

[作34]

【0244】1)塩化2ープロモー3,4,5,6ーテト ラフルオローベンゾイル

365g(1.33モル)の2ープロモー3,4,5,6ーテトラフルオロ安息香酸(テトラヘドロン(Tetrahedron)、23、4719(1967)]を2リットルの塩化チオニル中に加え、そして混合物を選流下で11時間にわたり気体の発生が停止するまで加熱した。過剰の塩化チオニルを真空中でストリッピングさせ、そして残渣を蒸留した。

【0245】収量:330g(理論値の85%)、 沸点:81-85℃/3-5ミリバール。

【0246】2)(2ープロモー3,4,5,6ーテトラフルオローベンゾイル)マロン酸ジエチル

15.9g(0.167モル)の塩化マグネシウムを150m1の無水アセトニトリル(ゼオライト上で乾燥された)中に加え、そして26.9g(0.167モル)のマロン酸ジエチルを冷却しながら滴下した。混合物を0℃に冷却し、46m1(33.7g=0.33モル)のトリエチルアミンを滴々添加し、そして混合物を30分間攪拌した。次に48.9g(0.168モル)の塩化2ーブロモー3.4,5.6ーテトラフルオローベンゾイルを滴々添加し、混合物を0℃でさらに1時間攪拌し、そして一夜にわたり室温にした。それを100m1の5N塩酸で処理し、塩化メチレンを用いて3回抽出し、抽出物をNa2SO4を用いて乾燥し、そして真空中で濃縮した。

【0247】粗収量:62.7g。

【0248】3)(2-プロモー3,4,5,6-テトラフルオローベンゾイル)一酢酸エチル

60gの粗製(2ープロモー3,4,5,6ーテトラフルオローベンゾイル)マロン酸ジエチルを150mlの水中に加え、0,6gの4ートルエンスルホン酸で処理し、そして混合物を選流下で6時間にわたり加熱した。それを塩化メチレンで抽出し、抽出物を水で洗浄し、Na2SO4を用いて乾燥し、そして濃縮した。

【0249】粗収量:46g、

沸点(バルブ管中で試料蒸留):150-160℃ (炉)/3ミリバール、

質量スペクトル: m/e342(M⁺)、297(M⁺-OC₂H₅)、263(M⁺-Br)、257、255(M⁺-CH₂CO₂C₂H₅)、235(263-28)。

【0250】4)2-(2-ブロモ-3,4,5,6-テトラフルオローベンゾイル)-3-エトキシーアクリル 10 酸エチル

45gの粗製(2-ブロモー3,4.5,6-テトラフルオローベンゾイル)ー酢酸エチルを32.2g(0.31 モル)の無水酢酸および28.4g(0.19モル)のオルト鰯酸トリエチルの中に加え、そして混合物を罩流下で2時間加熱した。過剰の試薬を最初に真空中でそして次に高真空中でストリッピングさせ、そして粗製生成物を次の段階で反応させた。

【0251】粗収量:50.7g。

【0252】5)2-(2-プロモ-3,4,5,6-テ 20 トラフルオローベンゾイル)-3-シクロブロピルアミ ノーアクリル酸エチル

水冷しながら、50.7gの段階4)からの粗製生成物を90m1のエタノール中で8.6g(0.15モル)のシクロプロピルアミンで滴々処理し、混合物を室温で撹拌し、一夜放置し、再び良く冷却し、結晶を吸引濾別し、冷エタノールで洗浄し、そして乾燥した。

【0253】収量:29g(4段階にわたり42%)、 融点:103−105℃(エタノールから)。

15.9g(0.167モル)の塩化マグネシウムを1 【0254】6)5ープロモー1ーシクロプロビルー 50mlの無水アセトニトリル(ゼオライト上で乾燥さ 30 6,7,8ートリフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキ れた)中に加え、そして26.9g(0,167モル)の ソー3ーキノリンカルボン酸エチル

28g(68ミリモル)の2-(2-プロモー3,4,5,6-テトラフルオローベンゾイル)-3-シクロプロビルアミノーアクリル酸エチルを6.9g(164ミリモル)と共に88mlのDMF中で還流下で6時間にわたり加熱した。混合物を冷却後に水中に注ぎ、そして沈澱した沈澱(赤色)を吸引濾別し、大量の水で洗浄し、そして再循環空気炉中で80℃で乾燥した。

【0255】粗収量:27.3g、

40 融点:150-175℃,

グリコールモノメチルエーテルからの再結晶化後、

融点:187-191℃。

【0256】7)5-プロモー1-シクロプロピルー 6,7,8-トリフルオロー1、4-ジヒドロー4-オキ ソー3-キノリンカルボン酸

26.7g(68ミリモル)の粗製5ープロモー1ーシ クロプロビルー6.7.8ートリフルオロー1.4ージヒ ドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸エチルを1 65m1の酢酸、110m1の水および18m1の濃硫

50 酸の混合物中に加え、そして還流下で2時間加熱した。

冷却した反応混合物を水水中に注ぎ、沈澱した沈澱を吸 引濾別し、大量の水で洗浄し、そして再循環空気炉中で 80℃において乾燥した。

【0257】収量:19.7g (理論値の80%)、 融点:208-210℃ (分解を伴う)、

グリコールモノメチルエーテルからの再結晶化後、

融点:212-214℃(分解を伴う)、

NMR 「H (DMSO) : 8.73s (C-2における 1H)、4.16m (1H、シクロプロビル)、1.2m (4H、シクロプロビル) [ppm]。

【0258】質量スペクトル: m/e361 (M*-Hz0)、317 (M-CO2)、41 (100%、C3Hs)。

【0259】最終的化合物の製造

実施例 1

[0260]

【化35】

$$H \xrightarrow{N} H \xrightarrow{E} COOH$$

【0261】A.1-シクロブロピルー7ー({S. S)-2.8-ジアザビシクロ {4.3.0} ノニー8-ル)-6.8-ジフルオロー1.4-ジヒドロー4ーオキ ソー3-キノリンカルボン酸

141.5g(0.5モル)の1ーシクロプロピルー6.7.8ートリフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を69.25g(0.55モル)の(+)ー(S,S)ー2.8ージアザビシクロ[4.3.0]ノナン(ee99.5%、GC99.8%強度)と共に1500m1のアセトニトリルおよび750m1のジメチルホルムアミドの混合物中で55g(0.5モル)の1,4ージアザビシクロ[2.2.2]オクタンの存在下で還流下で1時間加熱した。懸濁液を冷却し、沈澱を吸引濾剤し、水で洗浄し、そして次に1リットルの水(pH7)と共にさらに撹拌した。生成物を吸引濾剤し、そして再循環空気炉中で60℃において乾燥した。【0262】収鑑:163.4g(理論値の84%)、融点:249-251℃(分解を伴う)。

【0263】B. (-) -1-シクロプロピルー7-([S,S] -2.8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノニ -8-ル) -6,8-ジフルオロ-1,4-ジヒドロ-4 -オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩

6.0g(15.4ミリモル)の1ーシクロプロピルー7 液を冷却し、そして種結晶(激縮された5m1の試料かー($\{S,S\}-2,8-\mathcal{O}$ アザピシクロ $\{4,3,0\}$ ノ ら得られた。残渣をアセトニトリルと共に撹拌した)で 処理した。混合物を約3 \mathbb{C} において2時間撹拌し、そし 4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を4 \mathbb{O} m1の半ー で両方のパッチから沈澱した沈澱を急速に吸引激別し、 アセトニトリルで洗浄し、そして1.5リットルの氷水 酸塩の溶液を濾過した。濾液を半分に濃縮し、水中で冷 50 中に加えた。最初の薄い良く撹拌できる懸濁液は約1 \mathbb{O}

64

却し、そして40mlのエタノールで処理した。黄色結晶を吸引濾削し、エタノールで洗浄し、そして高真空中で60℃において乾燥すると、色が薄くなった。5.51g(理論値の84%)の塩酸塩が得られ、それはすでに非常に純粋であった。

【0264】さらに精製するために、それを50mlの水中に熱の存在下で溶解させた。黄色溶液を5mlの半 一濃縮された塩酸で処理し、水中で冷却し、沈澱した結 品を吸引濾別し、エタノールで良く洗浄し、最初に室温 10 でそして次に高真空中で100℃において乾燥した。

【0265】収量:4.64g(理論値の70.8%)、 融点:324-325℃(分解を伴う)、 TLC(シリカゲル、ジクロロメタン/メタノール/1 7%強度水性アンモニア=30:8:1):均質、Rf

 $(\alpha)^{2s} = -256^{\circ} (c = 0.5, H_2O)$.

純度(HPLC):99.4%強度。

【0266】C20H21F2N1O3. HCl(425.5) 20 計算値:C56.4、H5.2、N9.9、C18.3

実測値: C 5 6.3、H 5.4、N 9.8、C 1 8.3 実施例2

[0267]

額:0.3、

【化36】

【0268】A. 8-クロロ-1-シクロプロビル-7 -({S,S}-2,8-ジアザビシクロ {4,3,0}/ ニ-8-ル)-6-フルオロ-1,4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボン酸

下記寸法の2パッチを平行に実験しそして一緒に処理し た。

【0269】170g(0.6モル)の8ークロロー1 ーシクロプロビルー6,7ージフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を84g (0.67モル)の(+)ー[S,S]ー2,8ージアザ 40 ビシクロ [4.3.0]ノナンと共に1.8リットルのアセトニトリル/900mlのジメチルホルムアミドの混合物中で99g(0.88モル)の1.4ージアザビシクロ(2.2.2]オクタン(DABCO)の存在下で還流下で1時間加熱した(内部温度:90.5℃)。黄色溶液を冷却し、そして種結晶(濃縮された5mlの試料から得られた。残渣をアセトニトリルと共に撹拌した)で処理した。混合物を約3℃において2時間撹拌し、そして両方のバッチから沈緩した沈緩を急速に吸引速別し、アセトニトリルで洗浄し、そして1.5リットルの氷水のフロでは2を一般知の強い自人情報できる影響がは約10人

分後にあまり撹拌できなくなり、それをさらに150m 1の水で希釈した。沈澱を吸引濾別し、水で洗浄し、そ して再循環空気炉中で80℃において乾燥した。

【0270】収量:402g(理論値の82.7%)、 薄黄色の生成物、

融点:193-196℃(分解を伴う)。

【0271】Rf値(シリカゲル;塩化メチレン/メタ ノール/17%強度水性NH3=30:8:1):0.

({S,S}-2,8-ジアザビシクロ{4.3.0}ノ $= -8 - \mu) - 6 - 7 \mu$ $\pi = 1, 4 - 9 \forall \xi = 4 - 4$ オキソー3ーキノリンカルボン酸塩酸塩

13.1g(32ミリモル)の8-クロロー1-シクロ プロピルー $7-({S,S}-2,8-ジアザビシクロ$ $[4.3.0]/=-8-\mu)-6-7\mu\pi\mu-1,4-$ ジヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を50 m1の水中に懸濁させ、そして50m1の半一濃縮され た塩酸を添加しながら溶液状にした。混合物をガラスフ リットを通して濾過し、濾液を真空中で濃縮し、そして 20 残渣を約300mlの無水エタノールと共に撹拌した。 懸濁液を氷中で冷却し、沈澱を吸引濾別し、エタノール で洗浄し、最初に室温でそして次に100℃において真 空中で乾燥した。

【0273】収量:13.4g(理論儀の93.8

融点:328-330℃(分解を伴う)、

R f 値(シリカゲル、塩化メチレン/メタノール/17 %強度水性NH3=30:8:1):0.4。

純度(HPLC): 99.9%強度。

 $(\alpha)^{24} = -164.4^{\circ} (c = 0.45, H_2O)$.

C20 H21 C 1 F N3 O3, HC 1 (442.3)

計算値: C54.3、H5.0、N9.5、C16.0

実測値: C54.3、H5.0、N9.5、C16.0

C. 同様にして、例えば下記の塩類を製造することもで

きた:8-クロロー1-シクロブロビルー7- ({S,

S) -2,8-ジアザビシクロ(4.3.0) ノニー8-

ル) -6-フルオロ-1,4-ジヒドロ-4-オキソー

3ーキノリンカルボン酸メタンスルホン酸塩、8ークロ 40

ロー1ーシクロプロピルー7ー ($\{S,S\}$ -2,8ージ

アザビシクロ〔4.3.0〕 ノニー8ール) ー6ーフルオ ロー1,4-ジヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカル

ボン酸トルエンスルホン酸塩、8-クロロー1-シクロ

プロビルー $7 - (\{S, S\} - 2, 8 - ジアザビシクロ$

[4,3,0] $/ = -8 - \hbar = -7 \hbar \pi = -1.4 - 1.4 - 1.4 = -1.4$

ジヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸硫酸 塩、8-クロロー1-シクロプロビルー7-(〔S,

S) -2,8-ジアザビシクロ(4,3.0) ノニー8-

ル) -6-フルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー

66

3-キノリンカルボン酸酢酸塩、8-クロロー1-シク ロブロピルー7ー ((S.S) -2.8-ジアザビシクロ $\{4,3,0\}$ $/ = -8 - \hbar$ $-6 - 7 \hbar \pi - 1,4 - 1$ ジヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸乳酸 塩、8-クロロー1-シクロブロピルー7-(〔S. S) -2,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノニー8-ル) -6-フルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー 3-キノリンカルボン酸クエン酸塩、8-クロロ-1-シクロプロピルー7ー((S,S)-2.8-ジアザビシ [0272] B. 8-900-1-9907049-7 10 90(4.3.0) 10-8-90-6-79940-1.

4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸エ

【0274】実施例3

ンボン酸塩(embonate)。

[0275]

【化37】

【0276】実施例1と同様にして、1-シクロプロビ ルー6,7-ジフルオロー1,4-ジヒドロー4ーオキソ -3-キノリンカルボン酸を用いて下記のものが得られ た。

A. $1-\nu = 0$ アザピシクロ (4.3.0) ノニー8ール) ー6ーフルオ ロー1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカル ボン酸、

融点:256-258℃(分解を伴う)。

【0277】B. 1ーシクロプロビルー7ー(〔S, S) -2,8-ジアザビシクロ (4,3.0) ノニー8-ル) -6-フルオロー1,4-ジとドロー4-オキソー 3ーキノリンカルボン酸塩酸塩。

融点:>320℃(分解を伴う)。

 $(\alpha)^{**} = 90.6^{\circ} (c=0.48, H_{*}O).$

[0278]

実施例4

[0279]

【化38】

【0280】A. 6g (20ミリモル) の1ーシクロブ ロビルー5,6,7,8ーテトラフルオロー1,4ージヒド ロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を2.7g $(21.4 \xi y \in \mathcal{N})$ の(+)-{S,S}-2.8-ジア

50 ザビシクロ {4,3.0} ノナンと共に40m1のアセト

ニトリル/20mlのNーメチルピロリドン中で2.2 g (20ミリモル)の1,4ージアザビシクロ〔4.3.0〕オクタンの存在下で選添下で1時間加熱した。得られた懸濁液を冷却し、沈霧を吸引濾別し、アセトニトリルで洗浄し、そして100 $\mathbb{C}/12$ ミリバールにおいて乾燥した。

【0281】収量: 6.7g(理論値の82.3%)の1 ーシクロプロビルー7ー($\{S,S\}$ ー 2.8 ージアザビシクロ $\{4.3.0\}$ ノニー8ール) -5.6.8ートリフルオロー1.4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、

融点:257-259℃(分解を伴う)、

グリコールモノメチルエーテルからの再結晶化後、

融点:260-265℃(分解を伴う)。

【0282】B. 1.5g (3.7ミリモル)の段階 Aからの生成物を6m1の1N塩酸中に加えた。短時間後に、塩酸塩が沈澱し、吸引減別し、各回毎に5m1のエタノールで2回洗浄し、そして100℃/12ミリバールにおいて乾燥した。

【0283】収量:1.4g(理論値の85.7%)の1 ーシクロプロピルー7ー({S.S})-2.8-ジアザビ シクロ(4.3.0)ノニー8ール)-5.6,8ートリフ ルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリン カルボン酸塩酸塩、

融点:>310℃(分解を伴う)、 [a]**=-272*(c=0.5、H₂O)。

[0284]

実施例5

[0285]

【化39】

【0286】オートクレーブ中で5.2g(13ミリモル)の実施例4Aからの生成物を80mlのピリジン中 40の15mlの液体アンモニアで処理し、そして130℃に12時間加熱した。次に混合物を冷却し、オートクレーブを自然に冷まし、混合物を濃縮し、そして残渣を超音波浴中でアセトニトリルで処理した。未溶解の沈緩を吸引濾別し、残渣を約150mlの水中に熱の存在下で溶解させ、溶液を濾過し、10mlの半−濃縮された塩酸を用いて塩酸塩を沈緩させ、吸引減別し、そして再循環空気炉中で100℃において乾燥した。得られた生成物を100mlのグリコールモノメチルエーテル中に110-115℃において懸濁させ、そして38mlの半 50

68

ー機縮された塩酸の添加により溶液状とした。溶液をガラスフリットを通して熱時に濾過し、冷却し、冷却された黄色結晶を吸引濾別し、エタノールで洗浄し、そして120%/12ミリパールにおいて乾燥した。

【0287】収量:2.5g(理論値の44%)の5-アミノー1-シクロプロビルー7-([S,S]-2.8 ージアザビシクロ[4.3.0]/ニー8-ル)-6.8 ージフルオロー1.4-ジヒドロー4-オキソー3-キ ノリンカルボン数塩酸塩、

10 融点:>335℃(分解を伴う、濃い着色がすでに33 5℃以下で生じた)、

 $(\alpha)^{89} = -280.8^{\circ} (c = 0.53, H_2O)$.

[0288]

実施例 6

[0289]

【化40】

【0290】1.4g(5ミリモル)の7ークロロー1 ーシクロプロピルー6ーフルオロー1,4ージヒドロー 4-オキソー1,8-ナフチリジン-3-カルボン酸を 1.3g(10.3ミリモル)の(+)-(S,S)-2.8 ージアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンと共に水を除去し ながら15m1のアセトニトリル中で室温において1時 間撹拌した。一夜放置した後に、沈澱を吸引濾別し、ア 30 セトニトリルで洗浄し、そして精製するためにシリカゲ ル上でクロマトグラフィー(溶雑剤:塩化メチレン/メ タノール/17%強度水性アンモニア30:8:1、R f値:0.4) にかけた。得られた1-シクロプロビル -7-({S, S}-ジアザビシクロ {4.3.0} ノニ -8ール) -6-フルオロー1.4-ジヒドロー4-オ キソー1,8-ナフチリジン-3-カルボン酸を15m 1の半一濃縮された塩酸中に溶解させ、溶液を蒸発さ せ、そして残渣をエタノールと共に撹拌した。沈澱を吸 引濾別し、エタノールで洗浄し、そして120℃/12 ミリバールにおいて乾燥した。

収置:960mg (理論値の47%) の1-シクロプロ ピルー7-({S,S}-2,8-ジアザビシクロ [4. 3.0] ノニー8-ル) -6-フルオロ-1,4-ジヒド ロ-4-オキソー1,8-ナフチリジン-3-カルボン 鬱塩酸塩、

融点:345-346℃(分解を伴う)、 [α] **-+5.4° (c=0.5、H₂O)。

[0291]

50 実施例7

[0292] [(241]

【0293】実施例1と同様にして、(-)- $\{R,R\}$ -2,8-2アザビシクロ $\{4,3,0\}$ ノナンを用いて下記のものが得られた。

【0294】A. 1ーシクロプロビルー7ー({R, R} -2,8ージアザビシクロ {4,3.0} ノニー8ール)ー6,8ージフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、

融点:247-249℃(分解を伴う)。

【0295】B. 1ーシクロブロピルー7ー({R, R)-2.8ージアザビシクロ{4.3.0}ノニー8ール)-6.8ージフルオロー1.4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:322-326℃(分解を伴う)、

純度 (HPLC) : 99.4%強度、ee: 98.6%、 (α) **=+250* (c=0.5、H₂O) 。

[0296]

実施例8

[0297]

【化42】

【0299】A. 8ークロロー1ーシクロプロピルー7 - ((R,R)-2,8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノニー8-ル)-6-フルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸、

融点:192-195℃ (分解を伴う)。

【0300】B. 8-クロロー1-シクロプロピルー7 - ((R,R)-2,8-ジアザビシクロ(4.3.0)/ ニー8-ル)-6-フルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:323-324℃(分解を伴う)、

純度(HPLC):99,9%強度、

 $(\alpha)^{24} = +164.5^{\circ} (c = 0.58, H_2O)$

[0301]

C20 H21 C 1 F N3 O3. H C 1 (4 4 2.3)

70

計算値: C 5 4.3、H 5.0、N 9.5、C 1 1 6.0 実測値: C 5 4.2、H 5.0、N 9.5、C 1 1 6.1 実施例 9

[0302]

【化43】

(36)

10

【0303】実施例 | と同様にして、1 ーシクロプロビルー6,7 ージフルオロー1,4 ージヒドロー4 ーオキソー3 ーキノリンカルボン酸および(一)ー (R,R) ー2,8 ージアザビシクロ(4.3.0) ノナンを用いて下記のものが得られた。

【0304】A. 1ーシクロプロピルー7ー((R, R)-2,8ージアザピシクロ [4.3.0] ノニー8ール)-6ーフルオロー1.4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸。

20 融点:254-258℃(分解を伴う)。

【0305】B. 1ーシクロプロピルー7ー(〔R, R]-2,8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)-6ーフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸。

融点:320℃以上で分解、 (a) ** -+92.5* (c-0.53、H₂O)。

[0306]

実施例10

[0307]

[化44]

【0308】A. 1ーシクロプロピルー6,8ージフル オロー1,4ージヒドロー7ー(シスー2ーオキサー5, 8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)ー4ー 40 オキソー3ーキノリンカルボン酸

1.43g(5ミリモル)の1ーシクロプロピルー6.7,8ートリフルオロー1.4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を0.74g(5.4ミリモル)の93%強度シスー2ーオキサー5.8ージアザビシクロ[4.3.0]ノナンと共に0.67g(6ミリモル)の1.4ージアザビシクロ[2.2.2]オクタンの存在下で15m1のアセトニトリル/75m1のジメチルホルムアミドの混合物中で選流下で1時間加熱した。繁濁液を濃縮し、残渣を水と共に撹拌し、沈緩を吸引減別

50 し、そして真空中で80℃において乾燥した。

--- 36----

【0309】収置:1.67g(理論値の85.4%)。 融点:210-212℃(分解を伴う)。

【0310】B. 1ーシクロプロピルー6,8ージフル オロー1,4ージヒドロー7ー(シス-2ーオキサー5, 8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)ー4ー オキソー3ーキノリンカルボン酸塩酸塩

1.6g(4ミリモル)の段階Aからの生成物を120mlの半ー濃縮された塩酸中に60℃において溶解させ、溶液を濃縮し、残渣をエタノールと共に撹拌し、沈緩を吸引濾別し、そして真空中で90℃において乾燥し 10た。

【0311】収量:1.57g、

融点:300-303℃(分解を伴う)、

純度 (HPLC) : 97%強度。

【0312】C、実施例10Aと同様にして、1R,6 S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンを使用して融点が204-206 $\mathbb C$ (分解を伴う)の1-シクロブロビルー6,8-ジフルオロー1,4 ージヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸が得られた。

【0313】D. 実施例10Bと同様にして実施例10 Cからのベタインを使用して融点が324-325℃ (分解を伴う)の1-シクロブロピル-6,8-ジフル オロ-1,4-ジヒドロ-7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕/ニ-8-ル) -4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩が得られた。

[0314] [α] ** $\infty - 241$ ° ($c \approx 0.59$, H_3O).

[0315]

E. 実施例 10 Aと同様にして、1 S, 6 R - 2 - 3 + サー 5, 8 - 3 P ザビシクロ [4, 3, 0] ノナンを使用して融点が 20 A - 206 C (分解を伴う) の 1 - 3 P ロプロビルー 6, 8 - 3 P フルオロー 1, 4 - 3 P ドロー 7 - (1 S, 6 R - 2 - 3 P サー 5, 8 - 3 P ザビシクロ [4, 3, 0] ノニー 8 - 3 P) - 4 - 3 P ソカルボン酸が得られた。

[0316] $[a]^{x^{\alpha}} + 248^{\alpha} (c = 0.57, DMF)$

[0317]

F. 実施例10Bと同様にして、実施例10Eからのベタインを使用して融点が323 $^{\circ}$ (分解を伴う)の1-シクロプロビル-6,8-ジフルオロ-1,4-ジヒドロ-7-(1S,6R-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロ〔4,3.0〕ノニ-8-ル)-4-オキソ-3-キノリンカルボン酸塩酸塩が得られた。

[0318]

72 (a) ** = +238° (c=0.5, M_2 O).

[0319]

<u>実施例11</u> 【0320】

【化45】

【0321】実施例10と同様にして、8-クロロー1 ーシクロプロビルー6,7-ジフルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸を使用して下記のものが得られた。

【0322】A. 8-クロロー1-シクロブロビルー6 -フルオロー1,4-ジヒドロー7-(シスー2-オキサー5,8-ジアザビシクロ[4.3.0]/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸、

20 融点:180-185℃(分解を伴う)。

【0323】B. 8-クロロ-1-シクロプロピルー6 -フルオロ-1,4-ジヒドロ-7-(シス-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ[4.3.0]ノニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、 融点:227-232℃(分解を伴う)。

【0324】C. 8-クロロ-1-シクロプロピルー6 -フルオロ-1,4-ジヒドロ-7-(1R,6S-2-オキサ-5,8-ジアザビシクロ(4.3.0)/ニ-8 -ル)-4-オキソ-3-キノリンカルボン酸。

[0325]

D. 8-クロロー1-シクロプロビルー6-フルオロー1,4-ジヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3、0〕ノニー8ール)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:278-280℃ (分解を伴う)、 (α) **=--208° (c=0.5、N₂O)。

40 [0326]

E. 8-クロロー1-シクロプロピルー6-フルオロー 1,4-ジヒドロー7-(1S,6R-2-オキサー5, 8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸。

融点:188−190℃(分解を伴う)、 (α)** ∞+270° (c ∞ 0.5、DMF)。

[0327]

50 F. 8-クロロー1-シクロプロピルー6-フルオロー

1,4-ジヒドロー7-(15,6R-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ(4,3,0)/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:292-294℃(分解を伴う)、 [a] *'-+193°(c=0.5、H₂O)。

[0328]

実施例12

[0329]

[性46]

【0330】実施例10Aと同様にして、1ーシクロプロピルー6,7ージフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を使用して下記のものが得られた。

【0331】A. 1-シクロプロピルー6-フルオロー 20 1,4-ジヒドロー7-(シス-2-オキサー5,8-ジ アザビシクロ〔4、3.0〕ノニー8-ル)-4-オキソ -3-キノリンカルボン酸、

融点:246-249℃ (分解を伴う) (グリコールモ ノメチルエーテルから)。

【0332】B. 1-シクロプロビルー6-フルオロー 1,4-ジヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5, 8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸。

融点:243-245℃(分解を伴う)。

【0333】C. 1-シクロプロビルー6-フルオロー 1.4-ジヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5, 8-ジアザビシクロ〔4.3,0〕ノニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:300℃(分解を伴う)、

 $[\alpha]^{28} = 99^{\circ} (c = 0.5, H_2O)$

[0334]

実施例13

[0335]

[化47]

【0336】実施例10Aと同様にして、1ーシクロプロビルー5,6,7,8ーテトラフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を使用して下記のものが得られた。

74

【0337】A. 1-シクロプロピルー5,6,8-トリフルオロー1,4-ジヒドロー7-(シスー2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸。

融点:210-216℃(分解を伴う)。

【0338】B. 1-シクロブロピルー5,6,8-トリフルオロー1,4-ジヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ [4.3.0] ノニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸。

10 融点:234-237℃ (分解を伴う)、

 $(\alpha)^{34} = -287^{\circ} (c = 0.5, DMF)$

[0339]

C. 1ーシクロプロビルー5,6,8ートリフルオロー 1,4ージヒドロー7ー(1S,6R-2-オキサー5, 8ージアザビシクロ(4、3,0)/ニー8ール)ー4ー オキソー3ーキノリンカルボン酸、

融点:236-237℃ (分解を伴う)、 [α] *****+282° (c ** 0.5、DMF)。

0 [0340]

<u>実施例14</u> 【0341】

[(£48]

30 【0342】A. 4.1g(10ミリモル)の実施例13Aからの生成物を40mlのビリジン中の5mlの液体アンモニアで処理し、そしてオートクレーブ中で130℃に10時間加熱した。冷却後に、沈緩を吸引濾別し、水で洗浄し、そして再循環空気乾燥炉中で100℃で乾燥した。粗製生成物(2g)をグリコールモノメチルエーテルからの再結晶化により精製した:黄色結晶。【0343】収量:1.3g(理論値の31%)の5ーアミノー1ーシクロプロビルー6,8ージフルオロー1,4ージヒドロー7ー(シスー2ーオキサー5,8ージア40 ザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)ー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、

融点:233-240℃(分解を伴う)。

【0344】B. 同様にして、実施例13Cからの生成物を使用して5-アミノー1-シクロプロビルー6,8-ジフルオロー1,4-ジヒドロー7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸が得られた。

【0345】融点:212-214℃(分解を伴う)、

50

 $[\alpha]^{29} = -260^{\circ} (c = 0.5, DMF)$. [0346]

C. 同様にして、実施例13Cからの生成物を使用して 5-アミノー1-シクロプロピルー6,8-ジフルオロ -1,4-ジヒドロ-7-(1S,6R-2-オキサー 5,8-ジアザビシクロ〔4,3,0〕 ノニー8ール) -4-オキソー3-キノリンカルボン酸が得られた。 【0347】融点:213-215℃(分解を伴う)、

[0348]

 $(\alpha)^{26} + 261^{\alpha} (c = 0.5, DMF)$.

$$\begin{array}{c|c}
F & O & (S) \\
COO-CH_2-CH-CH_2-CH_3 \\
CH_3
\end{array}$$

【0351】A、7-(2-ターシャリーープトキシカ ルボニルー2,8ージアザビシクロ〔4,3,0〕ノニー 8-ル) -1-シクロプロピルー6,8-ジフルオロー 1,4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン

7.8g(20ミリモル)の1-シクロブロビルー7-(2,8-ジアザビシクロ(4,3,0) ノニー8ール) -6,8-ジフルオロー1,4-ジヒドロー4ーオキソー 3-キノリンカルボン酸を60m1のジオキサン/水 (2:1) および20mlの1N水酸化ナトリウム溶液 の混合物中に溶解させ、そして混合物を水冷および撹拌 しながら5.24g(24ミリモル)のピロ炭酸ジータ ーシャリーーブチルで処理した。混合物を室温で 1 時間 撹拌し、そして一夜放置した。沈澱した沈澱を吸引濾剤 し、250mlの水で洗浄し、そして再循環空気乾燥炉 中で50℃において一夜乾燥した。

【0352】収量:9.34g(理論値の95.5%)、 融点:216-219℃(分解を伴う)。

【0353】B. 7-(2-ターシャリーープトキシカ ルボニルー2,8ージアザビシクロ〔4.3.0〕 ノニー 8ール) -1ーシクロプロビルー6,8ージフルオロー 1.4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン 酸2 S ーメチルー1 ーブチル

2.15g(4.4ミリモル)の段階Aからの生成物を6 0mlのテトラヒドロフラン/水(1:1)中に室温で 懸濁させ、そして1.65g(5ミリモル)の炭酸セシ ウムを加えた。混合物を超音波浴中で約40℃において 20分類反応させ、約40m1の溶媒を40℃/12ミ リバールにおいて蒸留除去し、そして残存している溶液 を親液性化させると、微溶性の粗製セシウム塩が得られ た。3.3gのこの粗製塩を40m1のジメチルホルム アミド中に溶解させ、1.4gのS(+)-1-プロモー

2-メチループタンで処理し、そして超音波浴中で40 -50℃において一夜反応させた。得られた懸濁液を濃 20 縮し、残渣を水で処理し、そして塩化メチレンで抽出し た。硫酸ナトリウムを用いる乾燥後に、溶液を濃縮し、 そして残渣をクロマトグラフィーにより精製した(シリ カゲル、溶離剤:塩化メチレン/メタノール95: 5) 。

xCF₃COOH

76

質綴スペクトル:m/e406 (M*、95%)、346、

249, 98, 41, 28 (100%),

[0349] 実施例15

[0350]

【化49】

【0354】収量:950mg (理論値の38%)、 融点:72-83℃(分解を伴う)。

【0355】C. 1ーシクロプロビルー7ー(2,8-ジアザビシクロ(4.3.0) ノニー8ール) -6.8-ジフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノ リンカルボン酸2Sーメチルー1ーブチルトリフルオロ 群發塩

570mg (1ミリモル) の段階 B からの生成物を 3 m 1のトリフルオロ酢酸中に室温において溶解させ、そし て溶液を60℃/12ミリバールにおいて濃縮した。得 られた粘着性の油を5mlのエーテルと共に撹拌する と、固体生成物が得られた。これを吸引練別し、エーテ ルで洗浄し、そして高真空中で80℃において乾燥し 100

【0356】収量:450mg(理論値の78%)、 融点:214-216℃(分解を伴う)、 $(\alpha)^{39} = +2.8^{\circ} (c=0.5, DMF)$

[0357]

実施例16 [0358]

【化50】

--- 39----

【0359】超音波浴中で390mg(1ミリモル)の 1-シクロプロピルー7-(2,8-ジアザビシクロ (4,3,0) $/ = -8 - \hbar) - 6,8 - \Im \hbar$ 4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボン酸エ 70 ステルを40mgの水酸化ナトリウムの3mlの水中溶 液に室温において溶解させ、そして溶液を氷冷しながら 160mg (1.1ミリモル) のR-イソシアン酸(+) αーメチルーベンジルの溶液で処理した。沈澱した沈 澱を吸引濾別し、ジオキサンで洗浄し、そして高真空中 で100℃において乾燥した。

【0360】収量:530mg (理論値の99%) の1 ーシクロプロビルー6,8-ジフルオロー1,4-ジヒド ロー4ーオキソー7ー(2-(1R-フェニルーエチル 3、0〕 ノニー8ール) -3-キノリンカルボン酸エス テル、

融点:208-210℃(分解を伴う)、 $(\alpha)^{25} = -23.2^{\circ} (c = 0.5, DMF)$.

[0361]

反応生成物をクロマトグラフィーによりジアステレオマ 一類に分離することができ、そしてカルバモイル基を酸 性加水分解により再び除去すると、実施例1および7の 化合物類が得られた。

【0362】実施例17

[0363]

 $(\alpha)^{88} = -188.9^{\circ} (c = 0.51, CHCl_2)$.

[0366]

実施例18

[0367]

[任52]

【0368】実施例1と同様にして、1.4g(5ミリ モル)の9,10-ジフルオロー2,3-ジヒドロー3-※

*【化51】

$$\begin{array}{c|c}
F & O \\
CO_2C_2H_5 \\
H & N & F \\
\end{array}$$

78

【0364】1.52g(5ミリモル)の1ーシクロブ ロビルー6,7,8ートリフルオロー1,4ージヒドロー 4-オキソー3-キノリンカルボン酸エチルを30m1 のアセトニトリル中で550mg (5ミリモル)の1, 4ージアザビシクロ(2.2.2)オクタンおよび760 ピシクロ〔4、3.0〕 ノナンと50℃において2時間そ して60℃において2時間反応させた。冷却後に、得ら れた懸濁液を吸引濾別し、沈澱を水で洗浄し、そして真 空中で90℃において乾燥した。

> 【0365】収量:0.99g (理論値の47.5%)の $1-シクロプロピルー7-({S,S}-2.8-ジアザ$ ビシクロ (4.3.0) ノニー8ール) -6,8ージフル オロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカ ルボン酸エチル、

融点:194-195℃(アセトニトリルから)、

※メチルー?ーオキソー?Hービリド〔1,2,3ーデ〕

〔1,4〕 - ベンゾキサシン-6-カルボン酸を15m 1のアセトニトリル/7.5mlのジメチルホルムアミ ド中で0.85g(7.7ミリモル)の1,4ージアザビ シクロ(2,2,2)オクタンおよび0,7g(5,6ミリ モル) の(+) - $\{S, S\}$ -2 , 8 - ジアザビシクロ

〔4.3.0〕 ノナンと反応させた。

【0369】収量:1,24g (理論値の64%)の1 $0 - (\{S, S\} - 2, 8 - \mathcal{I} \mathcal{F} \mathcal{F} \mathcal{F} \mathcal{I} \mathcal{I} \mathcal{I} \mathcal{I} \{4, 3, 0\}$ **ノニー8ール)-9-フルオロー2,3-ジヒドロー3** ーメチルー?ーオキソー?Hービリド〔1,2,3ーデ〕 〔1,4〕 - ベンゾキサシン-6-カルボン酸、

融点:265-268℃(分解を伴う)、

 $\{\alpha\}$: -232.2° (c = 0.58, CHC1₃),

[0370]

50 同様にして、3 S-1 O-((S.S)-2,8-ジアザ

ピシクロ [4.3.0] ノニー8ール) ー9ーフルオロー 2.3ージヒドロー3ーメチルー7ーオキソー7Hーピ リド (1,2.3ーデ) [1.4] ーペンゾキサシンー6 ーカルボン酸も得られた。

【0371】 実施例19

[0372]

[任53]

【0373】実施例1と同様にして、1ーシクロプロビルー6,7ージフルオロー1,4ージヒドロー8ーメトキシー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を反応させ、そして反応生成物をクロマトグラフィー(シリカゲル、溶離剤:塩化メチレン/メタノール/17%強度水性アンモニア=30:8:1)により精製した。

【0374】融点が203-208℃(分解を伴う)の 1-シクロプロピル-7-((S,S)-2,8-ジアザ 20 ビシクロ {4.3.0} ノニ-8-ル)-6-フルオロ-1,4-ジヒドロ-8-メトキシ-4-オキソ-3-キ ノリンカルボン酸が得られた。

[0375]

 $(\alpha)^{38}: -193^{\circ} (c=0.4, CHC1_8)$,

[0376]

実施例20

[0377]

【化54】

$$\begin{array}{c|c} & & & & & & \\ & & & & & \\ H & & & & & \\ N & & & & & \\ N & & & & & \\ H & & & & & \\ & & & & & \\ \end{array}$$

[0379]

[α] **: -186.3° (c *** 0.3, CHC1 $_{a}$) $_{a}$

[0380]

実施例21

[0381]

【化55】

80

10 【0382】A. 7-({S,S}-2,8-ジアザビシ クロ {4.3.0}ノニー8ール)-1-(2,4-ジフ ルオロフェニル)-6-フルオロー1,4-ジヒドロー 4-オキソー1,8-ナフチリジン-3-カルボン酸エ チル

1.9g(5ミリモル)の7ークロロー(2,4ージフルオロフェニル)ー6ーフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー1,8ーナフチリジンー3ーカルボン酸エチルを680mg(5、4ミリモル)の(8,8)ー2,8ージアザビシクロ〔4,3、0〕ノナンと共に560mg(5ミリモル)の1,4ージアザビシクロ〔2,2,2)オクタンの存在下で20m1のアセトニトリル中で10℃において3時間撹拌した。懸濁液を吸引濾別し、水で洗浄し、そして乾燥した。0.35gの生成物が得られた。母液を濃縮し、残渣を水と共に撹拌し、未溶解の生成物を単離し、そしてクロマトグラフィー(シリカゲル、溶離剤:ジクロロメタン/メタノール/17%強度水性アンモニア)により精製することにより、さらに0.7gの生成物が単離された。

【0383】合計収量:1.05g(理論値の44 30%)、

(0 %), ឈ点:184−185℃ (分解を伴う) 〔α] ³*:+6.8° (c ∞ 0.46、CHC l₃)。

[0384]

B. 7-(〔S,S〕-2.8-ジアザビシクロ〔4.3、0〕ノニー8-ル〕-1-(2.4-ジフルオロフェニル)-6-フルオロー1.4-ジヒドロ-4-オキソー1.8-ナフチリジン-3-カルボン酸塩酸塩

0.8g(1.7ミリモル)の段階Aからの生成物を還流 下で10mlの酢酸および8mlの半一希釈された塩酸 の混合物中で4時間加熱した。混合物を濃縮し、残渣を 少量の水と共に撹拌し、沈澱を吸引濾別し、水冷エタノ ールで洗浄し、そして乾燥した。

【0385】収量:0.67g(理論値の83%)。 融点:324−326℃(分解を伴う)

 $(\alpha)^{**}:+10.8^{\circ}\ (c=0.37,DMF)$.

[0386]

<u>実施例22</u>

50 [0387]

【0388】 0.56g(2ミリモル)の1ーシクロブ ロビルー6,7ージフルオロー1,4ージヒドロー5ーメ 10 リバールにおいて乾燥した。 チルー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸エステルを 3.5mlのジメチルスルホキシド中で0.38g(3ミ リモル)の(S,S) - 2,8 - ジアザビシクロ(4.3. フナンおよび0、45g(4ミリモル)の1,4ージ アザピシクロ〔2,2,2) オクタンと共に120℃に2 時間加熱した。冷却後に、溶媒を高真空中で除去した。 残渣をアセトニトリルで抽出した。固体を分離し、アセ トニトリルで洗浄し、そして60-80℃において乾燥 した。

【0389】収量:0.5g(理論値の65%)の1-シクロプロピルー7ー((S,S)-2,8-ジアザビシ クロ〔4.3.0〕 ノニー8ール) - 6 - フルオロー1,4 ージヒドロー5ーメチルー4ーオキソー3ーキノリンカ ルボン酸エステル、

融点:217-219℃(分解を伴う)、

:-119° (c = 0.5, DMF).

[0390]

実施例23

[0391]

【化57】

【0392】A. 837mg (3ミリモル) の1ーシク ロプロビルー6,7ージフルオロー1,4ージヒドロー5 40 ーメチルー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を1. 1g(10ミリモル)の1,4ージアザビシクロ(2、 2.2] オクタンおよび665mg(3.3ミリモル)の 1R.6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ〔4. 3.0) ノナンー二塩酸塩と共に10mlのアセトニト リルおよび5mlのジメチルホルムアミドの混合物中で 還流下で2時間加熱した。混合物を蒸発させ、残渣を3 0mlの水と共に撹拌し、沈澱を吸引濾剤し、そして真 空中で80℃において乾燥した。

【0393】収量:400mg (理論値の34%)の1

82

ーシクロプロビルー6ーフルオロー1,4ージヒドロー 5-メデルー7ー(1 R, 6 S-2-オキサー5, 8-ジ アザビシクロ (4、3、0) ノニー8ール) ー4ーオキソ -3-キノリンカルボン酸、

融点:213-214℃(分解を伴う)。

【0394】B. 0.4gの段階Aからのベタインを5 mlの半ー濃縮された塩酸中に室湿において溶解させ、 溶液を濃縮し、そして残渣を約3mlのエタノールと共 に撹拌した。沈澱を吸引濾剤し、そして80℃/12ミ

【0395】収量:290mg (理論値の66%)の1 ーシクロプロピルー6ーフルオロー1,4ージヒドロー 5-メチルー7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジ アザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)-4ーオキソ 3ーキノリンカルボン酸塩酸塩。

融点:305−308℃ (分解を伴う) 、 [a] **:…79* (c=0.52、H,O)。

[0396]

実施例24

[0397]

[作58]

【0398】362mg (1ミリモル) の5ープロモー 30 1ーシクロプロピルー6.7.8ートリフルオロー1.4 ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸を2 20mg(2ミリモル)の1.4ージアザビシクロ(2. 2.2) オクタンおよび220mg(1.1ミリモル)の 1 S. 6 R - 2 - オキサー 5, 8 - ジアザビシクロ〔4. 3.0) ノナン二塩酸塩と共に3m1のアセトニトリル および1.5mlのジメチルホルムアミドの混合物中で 還流下で1.5時間加熱した。懸濁液を冷却し、沈澱を 吸引漆別し、30mlの水と共に撹拌し、そして高真空 中で90℃において乾燥した。

【0399】収量:320mg (理論値の68%) の5 ーブロモー1ーシクロプロピルー6,8ージフルオロー 1,4-ジヒドロー7-(1S,6R-2-オキサー5, 8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノニー8ール》 - 4-オキソー3ーキノリンカルボン酸。

融点:263-264℃(分解を伴う)。

[0400]

 $(\alpha)^{**} \approx +251^{\circ} (c \approx 0.3, CH_2Cl_2).$

[0401]

実施例 2 5

[0402] [(k59]

【0403】実施例1と同様にして、〔S,S〕-2-メチルー2,8-ジアザビシクロ〔4.3,0〕 ノナンを 用いて下記のものが得られた。

【0404】A、1-シクロプロビル-6,8-ジフル オロー1,4ージヒドロー7ー(〔S,S〕 - 2 - メチル -2.8-ジアザビシクロ (4.3.0) ノニー8ール)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸、

融点:230-233℃(分解を伴う)(グリコールモ ノメチルエーテルから再結晶化された)。

【0405】B、1ーシクロプロピルー6、8ージフル オロー1,4-ジヒドロー7ー ([S.S] -2-メチル -2,8-ジアザビシクロ(4.3.0) ノニー8ール)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸塩酸塩、

融点:258-260℃(分解を伴う)。 $(\alpha)^{39} = -216.3^{\circ} (c = 1, H_3C)$.

[0406]

実施例26

[0407]

【化60】

0 COOH

84

【0408】実施例1と同様にして、(R,R)-2-メチルー2.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノナンを 10 用いて下配のものが得られた。

【0409】A. 1ーシクロプロビルー6,8ージフル オロー1,4ージヒドロー7ー($\{R,R\}$ -2ーメチル -2,8-ジアザビシクロ(4.3.0) ノニー8ール) 4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、

融点:228-230℃(分解を伴う)(グリコールモ ノメチルエーテルから再結晶化された)。

【0410】B. 1ーシクロプロピルー6,8ージフル オロー1,4-ジヒドロー7ー((R,R)-2-メチル -2,8-ジアザビシクロ(4,3.0) ノニ-8-ル)-20 4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸塩酸塩、

ーシクロプロビルー6,8-ジフルオロー1,4-ジヒド

ローオキソー7ー(、(S,S)-2-(3-オキソー

1ープチル〕-2.8-ジアザビシクロ〔4、3.0〕ノ 40 ニー8ール) -4-オキソー3-キノリンカルボン酸、

融点: 181-183℃ (分解を伴う) (グリコールモ

ノメチルエーテルから再結晶化された)。

融点:258-260℃(分解を伴う)、 $(\alpha)^{28} = +213.8^{\circ} (c=1, H_2O)$.

[0411]

実施例27

[0412]

【作61】

COOH

【0413】1.95g(5ミリモル)の実施例1Aか ちの生成物を2.1g(30ミリモル)のメチルビニル ケトンと共に50mlのエタノール中で還流下で4時間 加熱した。混合物を濃縮し、残渣を水と共に撹拌し、沈 綴を濾剤し、エタノールで洗浄し、そして100℃/1 2ミリパールにおいて乾燥した。

【0414】収量:2.1g (理論値の91.5%)の1

 $(\alpha)^{84} = -120.7^{\circ} (c = 0.57, CH_{3}C1_{2}).$

[0415]

実施例28

[0416]

【化62】

【0417】1.95g(5ミリモル)の実施例1Aからの生成物を1.0g(10.8ミリモル)のクロロアセトンおよび1.3g(13ミリモル)のトリエチルアミンと共に30m1のジメチルホルムアミド中で50-80℃に3時間加熱した。溶液を濃縮し、残渣を水(pH6)と共に援拝し、そして未溶解の沈澱を吸引濾別し、水で洗浄し、再循環空気乾燥炉中で100℃において乾燥し(粗収量:1.3g)、そしてグリコールモノメチ*

【0418】収量: 1、12g (理論値の50%) の1 ーシクロプロピルー6、8ージフルオロー1、4ージヒド ロー4ーオキソー7ー({S,S}) -2ー{2-オキソ プロピル3-2、8ージアザビシクロ{4,3,0}ノニ -8-ル)-4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、 融点: 181-1847 (分解を伴う)、

 $(\alpha)^{**} = -72^{\circ} (c = 0.55, CHC1_{\circ}).$

86

[0419]

実施例29

[0420]

【化63】

$$CH_3\text{-CO-}CH_2CH_2 \xrightarrow{H} \stackrel{N}{\underset{H}{\bigvee}} CI \xrightarrow{N}$$

10

【0421】A. 実施例2Aからの生成物を実施例27と同様にして反応させると、融点が107-109℃の8-クロロー1-シクロプロビルー6-フルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー7-([S,S]-2-[3-オキソー1-プチル]-2,8-ジアザビシクロ〔4,3.0]ノニー8-ル)-3-キノリンカルボン酸が得られた。

[0422]

 $[\alpha]^{\times 3} = -53$ ° (c=0.67, CHC1₃).

[0423]

純度:99.2%強度(HPLC)。

【0424】B. 阿様にして、8-クロロ-1-シクロプロピル-7-(シス-2、8-ジアザビシクロ〔4、3.0)ノニ-8-ル)-6-フルオロ-1、4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボン酸を使用して融点が124-125℃のラセミ体8-クロロ-1-シクロプロピル-6-フルオロ-1、4-ジヒドロ-4-オキソ-7-シス-〔3-オキソ-1-ブチル〕-2、8-ジアザビシクロ〔4、3、0〕ノニ-8-ル)-3-キノリンカルボン酸が得られた。

【0425】実施例30

[0426]

[化64]

$$\begin{array}{c|c} F & O \\ \hline COOH \\ \hline CH_3-CO-CH_2 & N & F \\ \hline O & \\ \hline \end{array}$$

10 【0427】1.56g(4ミリモル)の実施例10Aからの生成物を30mlのジメチルホルムアミド中で0.82g(8.8モル)のクロロアセトンおよび1.05g(10.4ミリモル)のトリエチルアミンで処理し、そして混合物を50-80℃に3時間加熱した。得られた黄色溶液を80℃/15ミリパールにおいて濃縮し、そして油状残渣をそれが固化するまで水と共に撹拌した。固体生成物を吸引速別し、水で洗浄し、そしてグリコールモノメチルエーテルから再結晶化させた。

収置:830mg (理論値の47%) の1-シクロプロ 40 ピルー6,8-ジフルオロー1,4-ジヒドロー4ーオキ ソー7ー (シスー5ー〔2-オキソプロピル〕-2-オ キサー5,8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノニー8-ル) -3-キノリンカルボン酸、

融点:192-193℃(分解を伴う)。

【0428】実施例31

[0429]

【化65】

$$\begin{array}{c|c} F & O \\ \hline COOH \\ \hline CH_3-CO-CH_2CH_2 & N & F \\ \hline O & \\ \hline O & \\ \end{array}$$

【0430】1.56g(4ミリモル)の実施例10Aからの生成物を50mlのエタノール中で1.8g(25.6モル)のメチルビニルケトンと共に選流下で3時間加熱した。懸濁液を70℃/12ミリバールにおいて濃縮し、そして残渣を水と共に撹拌し、そしてグリコールモノメチルエーテルから再結晶化させた。

【0431】収量:1.33g(理論値の72%)の1 -シクロプロビルー6,8-ジフルオロー1,4-ジヒド* *ロー4ーオキソー7ー(シスー5ー〔3ーオキソー1ー プチル〕-2ーオキサー5,8-ジアザビシクロ〔4.

88

10 3.0) ノニー8ール) ー3ーキノリンカルボン酸、

融点:188-189℃ (分解を伴う)。

【0432】 実施例32

[0433]

【化66】

$$C_2H_5O_2C-CH_2-CH_2$$
 H
 $C_1H_5O_2C-CH_2-CH_2$
 H
 C_1
 H
 H

【0434】1.95g(4.8ミリモル)の実施例2Aからの生成物を30mlのグリコールモノメチルエーテル中で3g(30モル)のアクリル酸エチルと共に還流下で2時間加熱した。混合物を蒸発させ、残渣を水と共に撹拌し、沈澱を吸引減別し、乾燥し(粗収盤:1.9g)、そしてグリコールモノメチルエーテルから再結晶化させた。

【0435】収量: 1.45g (理論値の60%) の8 - クロロー1 - シクロプロビルー7 - ($\{S,S\}$ - 2 - $\{2$ - エトキシーカルボニルーエチル $\}$ - 2 - 8 - ジアザビシクロ (4 - 3 - 0 $\}$ ノニー8 - μ) - 6 - フルオロー1 + 4 - ジヒドロー4 - オキソー3 - キノリンカルボン酸。

融点:117-118℃ (分解を伴う) 、

 $(\alpha)^{23} = -103.5^{\circ} (c = 0.49, DMF)$

[0436]

純度:99.6%強度(HPLC)。

【0437】 実施例33

[0438]

【作67】

【0439】1.95g(4.8ミリモル)の実施例2Aからの生成物を30mlのエタノール中で0.8g(15モル)のアクリロニトリルと共に遷流下で2時間加熱した。混合物を蒸発させ、残渣を水と共に撹拌し、沈緩を吸引濾測し、乾燥し(粗収量:1.9g)、そしてグリコールモノメチルエーテルから再結晶化させた。

【0440】収量:1.6g(理論値の73%)の8-30 クロロー7-([S,S]-2-[2-シアノエチル]-2.8-ジアザビシクロ[4.3.0]ノニー8-ル)-1-シクロプロビルー6-フルオロー1.4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸。

融点: 153-155℃ (分解を伴う)、 (α) *'---98.6° (c--0.53、DMF)。

[0441]

純度:96%強度(HPLC)。

【0442】質量スペクトル:m/e458 (M*)、25 40 0、149 (100%、C9H13N2)、110、49。

[0443] 実施例34

[0444]

【化68】

$$CH_{3}OOC$$

$$CH = C$$

$$N$$

$$CH_{4}OOC$$

$$CH_{3}OOC$$

$$CH_{4}OOC$$

$$CH_{5}OOC$$

$$F$$

$$N$$

$$COOH$$

$$N$$

$$F$$

$$N$$

50

【0445】1、95g(5ミリモル)の実施例1Aか らの生成物を60mlのエタノール中で1.2g(8ミ リモル)のアセチレンジカルボン酸ジメチルと共に瀑流 下で2時間加熱した。懸濁液を濃縮し、残渣を水と共に 搅拌し、沈澱を吸引濾剤し、そして乾燥した。粗製生成 物(2.3g)をグリコールモノメチルエーテルから再 結晶化させた。

【0446】収量:2g (理論値の74%)の1-シク ロプロビルー7ー〔2一〔1,2-メトキシカルボニル ービニル) -1S,6S-2,8-ジアザビシクロ(4. 3.0] $/ = -8 - \nu - 6.8 - \nu - \nu - 1.4 - \nu$ ヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸。

融点:262-264℃(分解を伴う)、 $[\alpha]^{*4} = +28.8^{\circ} (c = 0.24, CH_2Cl_2)$,

[0447]

実施例35

[0448]

[化69]

$$CH_3OOC$$

$$CH = C$$

$$CH_3OOC$$

$$CH_3OOC$$

$$CH_3OOC$$

$$CH_3OOC$$

【0449】実施網34と同様にして、実施例2Aから の生成物をアセチレンジカルボン酸ジメチルと反応させ*

$$C_2H_5O_2C$$
 - $CH=CH$
 V
 V
 V
 V

【0453】780mg (2ミリモル) の1ーシクロブ ロビルー7ー(シスー2,8ージアザビシクロ〔4.3. 0) ノニー8ール) -6,8-ジフルオロー1,4-ジヒ ドローオキソー3ーキノリンカルボン酸を15mlのエ タノール中で500mg (5ミリモル) のプロピオン酸 40 融点:244-246℃。 エチルと共に還流下で1時間加熱した。懸濁液を冷却 し、沈澱を吸引濾別し、25m1のエタノールで洗浄 し、そして高真空中で80℃において乾燥した。

【0454】収量:880mg (理論値の90%) の1

*た。融点が210-212℃(分解を伴う)の8-クロ ロー1ーシクロプロピルー7ー〔2一〔1,2一ビスー メトキシカルボニルビニル) -15,65-2,8-ジア ザビシクロ〔4.3.0〕 ノニー8ール〕 ー6ーフルオロ -1,4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボ ン酸が87%の収率で得られた。

90

[0450]

 $(\alpha)^{24} = +16.6^{\circ} (c = 0.5, DMF)$.

[0451]

実施例36

[0452]

【化70】

ーシクロプロビルー7ー〔2-(トランス-2-エトキ シカルボニルビニル)ーシスー2、8ージアザビシクロ (4.3.0) $/ = -8 - \nu - 6, 8 - \Im \nu + 1 - 1,$ 4-ジヒドローオキソー3-キノリンカルボン酸、

【0455】実施例36と同様にして、対応する出発物 質を使用して下記のものが得られた。

[0456]

【化71】

-- 46---

91

$$C_2H_5O_2C$$

$$C = C$$

$$H$$

$$Y$$

$$H$$

$$Y$$

$$H$$

$$X^1$$

$$A$$

$$A$$

$$N$$

$$A$$

$$N$$

$$Y$$

$$H$$

[0457]

【表 1 2 】 実施例 出発物質 A X¹ Y 融点 (α) ε (実施例) (℃)

37	2A	CCI	Ħ	CH2	211-213	+6.3° (c=0.5,CHCl3)
38	22	CH	CH₃	CH2	199-201	-205° (c=0.5,CHCl3)
39	3A	CH	Ħ	CH2	284-286	-231° (c=0.5, CHCl ₃)
40	5	CF	NH_2	CH ₂	246-248	-14° (c=0.5, CHCl₃)
41	б	N	H	CH2	219-221	-162° (c=0. 25, CHC13)
42	19	C-0CH3	H	CH2		-23° (c=0. 25, CHCl ₃)
43	13C	CF	F	0	232-233	+8° (c=0.5,CHCl3)
44	1A	CF	Ħ	CH2	225-227*)	

*) 再結晶化されていない

実施例10と同様にして、対応する中間生成物を使用して下記のものが得られた。

* [0458] [[£72]

[0459]

【表13】 実施例 出発物質 A X^3 Y 融点 (a) s (実施例) (°C) 45 100 (F Н 208-209 +24° (c=0.5, CHCla) 0 110 (C)197-199 46 H -46° (c=0.5, CHCl₃) 47 138 (F F 230-232 -5° (c=0, 25, CHCla) ※【化73】

<u>実施例48</u> 【0460】

 CH_3O_2C H C = C H CI CI COOH CI

【0.461】実施例3.6と同様にして、8-クロロ-1 -シクロプロビル-7-($\{S,S\}$ -2,8-ジアザビ シクロ $\{4.3.0\}$ ノニ-8-ル)-6-フルオロ-

1,4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボン 酸をエタノールまたはメタノール中でプロビオン酸メチ 50 ルと反応させると、融点が220-222℃(分解を伴

う)の8-クロロー1-シクロプロピルー6-フルオロー1,4-ジヒドロー7-〔2-(トランス-2-メトキシカルボニルービニル)-〔S,S〕-2,8-ジアザピシクロ〔4.3.0〕/ニー8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸が得られた。

 $\{0.462\}$ $(\alpha)^{**}=+8.2^{*}$ $(c=0.5, CHC1_{3})$.

[0463]

$$CH_3O_2C$$

$$H$$

$$C = C$$

$$N$$

$$O$$

$$CI$$

$$N$$

$$CI$$

$$N$$

$$CI$$

【0465】407.5g(1ミリモル)の8-クロロー1ーシクロプロピルー6ーフルオロー1,4ージヒドロー7ー(1S.6R-2ーオキサー5,8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー8ール)-4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸(実施例11Eから)を10mlのメ 20タノール中で210mg(2.5ミリモル)のプロピオン酸メチルと共に還添下で1時間加熱した。混合物を濃縮し、そして単離された粗製生成物(450mg)を4mlのアセトニトリルから再結晶化させた。

【0466】収量:8-クロロ-1-シクロプロピルー 6-フルオロ-1,4-ジヒドロ-7-〔5-(トラン ス-2-メトキシカルボニルービニル)-1S,6R- ※ ※2ーオキサー5,8ージアザビシクロ(4,3.0)/ニー8ール)ー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、 融点:153-156℃(分解を伴う)、 [a] ** ** ** ** ** ** ** (c *** 0.5、CHC1**)。

94

0467]

<u>実施例50</u> 【0468】 【化75】

$$CH_3O_2C$$

$$C = C$$

$$N$$

$$O > R$$

【0469】実施例13Aの化合物との反応を実施例4 9と同様にして行うと、融点が169-170℃(分解 を伴う)の1-シクロプロビル-5,6,8-トリフルオ ロ-1,4-ジヒドロ-7-〔5-(トランス-2-メ トキシカルボニルービニル)-シス-2-オキサー5, 8-ジアザビシクロ〔4.3,0〕ノニ-8-ル)-4- ★40

★オキソー3ーキノリンカルボン酸が得られた(グリコールモノメチルエーテルから)。

【0470】実施例51

[0471]

【化76】

【0472】実施例10Eからの化合物との反応を実施 例49と同様にして行うと、融点が230-234℃ (分解を伴う)の1-シクロプロビル-6,8-ジフル

オロー1,4-ジヒドロー7- (5-(トランス-2-メトキシカルボニルービニル)-1S,6R-2-オキ50 サー5,8-ジアザビシクロ(4,3,0)/ニー8-

ル)ー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸が得られた (グリコールモノメチルエーテルから)、

 $[a]^{28} = -27^{\circ} (c = 0.5, CHC1_{\delta}).$

[0473]

実施例 5 2

[0474]

【化77】

$$CH_3O_2C$$

$$C = C$$

$$H$$

$$C = C$$

$$N$$

$$H$$

$$COOH$$

$$F$$

$$N$$

$$F$$

$$N$$

$$H$$

【0475】実施例24からの化合物との反応を実施例 49と同様にして行うと、融点が158-160℃(分 解を伴う)の5ープロモー1ーシクロプロピルー6.8 ージフルオロー1、4ージヒドロー7ー〔5ー(トラン スー2ーメトキシカルボニルービニル) -1 S,6 R-2-オキサー5.8-ジアザビシクロ〔4.3.0〕 ノニ -8-ル)-4-オキソー3-キノリンカルボン酸が得 20 られた (イソブロパノールから)、

 $(\alpha)^{28} + 8^{\alpha} (c = 0.27, CHC l_{2}).$

96

[0476]

実施例53

[0477]

【化78】

$$CH_3O_2C$$

$$H$$

$$C = C$$

$$H$$

$$N$$

$$F$$

$$N$$

$$F$$

$$N$$

$$F$$

$$N$$

$$F$$

6

36と同様にして行うと、融点が168-169℃の1 ーシクロプロピルー7ー (2-(トランス-2-エトキ シカルボニルービニル) -15,65-2,8-ジアザビ シクロ〔4,3.0〕 ノニー8ール)ー6.8ージフルオロ★

【0478】実施例17からの化合物との反応を実施例 30★-1.4-ジヒドロ-4-オキソ-3-キノリンカルボ ン酸メチルが得られた。

[0479] 実施例54

[0480]

【化79】

【0481】818mg (2ミリモル) の1ーシクロブ ロビルー5,6,8ートリフルオロー1,4ージヒドロー 7-(1R,6S-2-オキサー5,8-ジアザビシクロ [4,3,0] $J=-8-\mu]-4-x+y-3-+Jy$ ンカルボン酸(実施例13Bから)を15mlのエタノ ール中で680mg(4ミリモル)のアセチレンージカ ルボン酸ジエチルで処理し、そして混合物を超音波浴中 で30℃において1時間処理した。懸濁液を吸引濾剤

し、沈澱をエタノールで洗浄し、そして高真空中で70 *Cにおいて乾燥した。

【0482】収量:890mg (理論値の77%)の1 ーシクロプロビルー7ー {5-(1,2-ビス-エトキ シカルボニルービニル)-1R,6S-2-オキサー5。 $8-ジアザビシクロ {4.3.0} ノニー<math>8-ル$) -5, 6,8-トリフルオロー1,4-ジヒドロー4-オキソー 50 3ーキノリンカルボン酸、

融点:220-222℃(分解を伴う)(グリコールモ ノメチルエーテルから)、

 $(\alpha)^{2} = -57^{\circ} (c = 0.5, CHC1_{\circ}).$

[0483] × 実施例55 [0484]

【化80】

【0485】1ーシクロプロビルー6,8ージフルオロ -1,4-ジヒドロー?ー(トランス-2-オキサー5, 8-ジアザ〔4.3.0〕 ノニー8ール〕 -4-オキソー 3-キノリンカルボン酸との反応を実施例36と同様に して行うと、1ーシクロプロピルー7ー (5ー(トラン スー2ーエトキシカルボニルービニル)ートランスー2 ーオキサー5,8ージアザビシクロ〔4.3.0〕ノニー ※20

(88-1) (-6,8-9) (-1,4-9) (-4-4)オキソー3ーキノリンカルボン酸が得られた。

98

【0486】融点:266-268℃(分解を伴う) (グリコールモノメチルエーテルから)。

[0487] 実施例56

[0488]

【张81】

【0489】1ーシクロプロピルー6,8ージフルオロ - 1,4 - ジヒドロー7 - (トランス - 2 - オキサ - 5, 30 得られた。 8-ジアザ〔4,3.0〕 ノニー8ール) -4-オキソー 3-キノリンカルボン酸を実施例36と同様にしてプロ ビオン酸メチルと反応させると、1-シクロプロビルー 7- [5-(トランス-2-メトキシカルボニルービニ ル)ートランスー2ーオキサー5,8ージアザビシクロ (4.3.0) ノニー8ール) -6,8-ジフルオロー1,★

 $COOR^2$ <u>k</u>1

【0494】 [式中、AはCH、CF、CC1、C-0 CH3、C-CH3またはNを表し、X1はH、ハロゲ ン、NH2またはCH3を表し、R1はC1-C3-アルキ ル、FCH2CH2-、シクロプロビルまたは場合により ハロゲンによりモノ巡換ないしトリ巡換されていてもよ いフェニルを表すか、或いはAおよびR¹が一緒になっ て構造C-O-CH2-CH(CH3)-の架橋を示すこと 50

★4-ジヒドロー4-オキソー3-キノリンカルボン酸が

【0490】融点:275-277℃(分解を伴う)。 【0491】本発明の主なる特徴および態様は以下のと おりである。

[0492] 1. 式(1)

[0493]

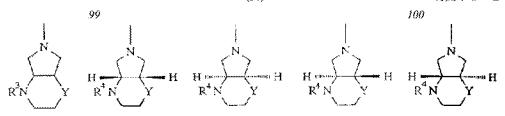
【化82】

(I)

もでき、R2はH、場合によりヒドロキシル、ハロゲン もしくはアミノにより置換されていてもよい C1-C3-アルキル、または5-メチルー2-オキソー1.3-ジ オキソルー4ーイルーメチルを表し、Bは式

[0495]

【作83】



【0496】の基を表し、ここでYはOまたはCH2を *CO-C6H5. 表し、そしてR3はC2-C5-オキソアルキル、CH2-*

 $CH_2CH_2CO_2R'$, $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$,

-CH=CH-CO2R' またはCH2CH2-CNを表 し、ここでR'は水素またはC1-C3-アルキルを示 し、R4はH、C1-C3-アルキル、5-メチルー2- ※ ※オキソー1.3ージオキソルー4ーイルーメチル、C1ー C5-オキソアルキル、CH2-CO-C6H5、

 $CH_2CH_2CO_2R'$, $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$,

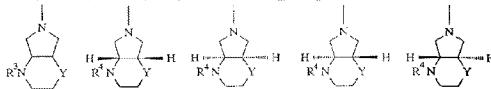
--CH=CH-CO2R' またはCH2CH2-CNを表 し、ここでR'は水素またはC1-C3-アルキルを示 す)のキノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導 体類、並びにそれらの薬学的に有用な水和物および酸付 ルカリ土類金属、銀およびグアニジニウム塩類。

[0497] 2. AMCH, CF, CC1, C-OCH aまたはNを表し、X¹がH、F、CI、Br、NH2ま ★

★たはCH3を表し、R1がC2H5、シクロプロピルまたは 2.4-ジフルオロフェニルを表すか、或いはAおよび R¹が一緒になって構造C-O-CH₂-CH(CH₃)-の契橋を示すこともでき、R2がH、CH3、C2H5また 加塩類、並びに上記のカルボン酸類のアルカリ金属、ア 20 は5-メチルー2-オキソー1,3-ジオキソルー4-イルーメチルを表し、Bが式

[0498]

[[284]



【0499】の基を表し、ここでYがOまたはCH2を 30分C6H5、CH2CH2-CO-CH3、 表し、そしてR3がCH2-CO-CH3、CH2-CO-☆

$$CH_2 CH_2 CO_2 R'$$
, $R'O_2 C-CH=C-CO_2 R'$, $-CH=CH-CO_2$

R' またはCH2CH2-CNを表し、ここでR' がC1 -C2-アルキルを示し、R4がH、C1-C3-アルキ ル、5-メチル-2-オキソ-1,3-ジオキソル-4 ◆ ◆一イルーメチル、CH2−CO−CH3、CH2−CO− C6H5, CH2CH2-CO-CH3, CH2CH2CO 2 R '

 $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$, $-CH=CH-CO_2R'$ æta

CH2CH2-CNを表し、ここでR'がC1-C2-アル リドンーカルボン酸誘導体類、並びにそれらの薬学的に 有用な水和物および酸付加塩類、並びに基礎となるカル ボン酸類のアルカリ金属、アルカリ土類金属、銀および グアニジニウム塩類。

[0500] 3. AMCH, CF, CC1, C-OCH 3またはNを表し、X¹がH、F。C1、Br、NH2ま

たはCH3を表し、R¹がC2H5、シクロプロビルまたは キルを示す、上記1の式(1)のキノロンおよびナフチ 40 2,4-ジフルオロフェニルを表すか、或いはAおよび R¹が一緒になって構造C-O-CH₂-CH(CH₃)-の架橋を示すこともでき、R2がH。CH3またはC2Hs を表し、Bが式

> [0501] 【化85】

【0502】の基を表し、ここでYがOまたは CH_2 を表し、そして R^4 がH、 C_1-C_3 -Yルキル、5-メチルー2-オキソー1,3-ジオキソルー4-イルーメチ *

H 4 H 4 Y R N Y R N Y *** C H2 - C O - C 6 H5 C H2

*/V, CH2-CO-CH3, CH2-CO-C6H5, CH2 CH2-CO-CH3, CH2CH2CO2R',

102

 $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$, $-CH=CH-CO_2R'$ in the second second contribution of the second contribution of

CH2CH2-CNを表し、ここでR′がC1-C2-アルキルを示す、上記1の式(1)のキノロンおよびナフチリドンーカルボン酸誘導体類、並びにそれらの薬学的に有用な水和物および酸付加塩類、並びに基礎となるカルボン酸類のアルカリ金属、アルカリ土類金属、銀およびゲアニジニウム塩類。

【0503】4.8ークロロー1ーシクロプロピルー7ー({S,S})-2.8ージアザビシクロ{4.3.0}ノニー8ール)-6ーフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、並びにそれらの薬学的に有用な水和物および酸付加塩類、並びに基礎となるカルボン酸類のアルカリ金属、アルカリ土類金属、銀およびグアニジニウム塩類。

【0504】5.1ーシクロプロピルー7ー({S.S}-2,8ージアザビシクロ{4.3.0}ノニー8ール)ー6,8ージアルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、1ーシクロプロピルー7ー({S,S}-2,8ージアザビシクロ{4.3.0}ノニー8ール)ー6ーフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、1ーシクロプロビルー7ー({S,S}-2,8ージアザビシクロ{4.3.0}ノニー8ール)ー5,6,8ートリフルオロー1,4ージヒドロー4ーオキソー3ーキノリンカルボン酸、およびそれらの塩類からなる群のキノロンカルボン酸類。【0505】6.AがCH、CF、CC1、CーOCH

3、C-CHaまたはNを表し、X¹がH、ハロゲン、N ※

 $F \xrightarrow{X^1} O COOR^2$ $HN \xrightarrow{Y} R^1$

【0509】〔式中、A、Y、X¹、R¹およびR²は上 記の意味を有する〕の化合物を、適宜酸結合剤の存在下 で、式(III)

[0510]

[E88]

 $R^3 - X^3 \tag{111}$

※HzまたはCH3を表し、R¹がC1-C3-アルキル、FCH2CH2-、シクロプロビルまたは場合によりハロゲンによりモノ圏換ないしトリ圏換されていてもよいフェニルを表すか、或いはAおよびR¹が一緒になって構造C-O-CH2-CH(CH3)-の架橋を示すこともでき、R²がH、場合によりヒドロキシル、ハロゲンもしくはアミノにより圏換されていてもよいC1-C3-アルキル、または5-メチル-2-オキソー1、3-ジオキ20 ソルー4-イルーメチルを表し、そしてBが式

[0506]

【作86】

$$R^3N$$
 Y

【0507】の基を表し、ここでYがOまたはCH2を 30 表し、そしてR³がC2-C5-オキソアルキル、CH2-CO-C6H5、CH2CH2CO2R'、またはCH2CH 2-CNを表し、ここでR'が水素またはC1-C3-ア ルキルを示す、上記1-3の式(I)のキノロンーおよ びナフチリドンーカルボン酸誘導体類の製造方法におい て、式(II)

[0508]

【化87】

(II)

〔式中、R³は上記の意味を有しており、そしてX³はハロゲン、特に塩素、臭素またはヨウ素、を表す〕の化合物と反応させることを特徴とする方法。

【0511】7. AがCH、CF、CC1、C-OCH 3、C-CH3またはNを表し、X¹がH、ハロゲン、N 50 H2またはCH3を表し、R¹がC1-C3-アルキル、F

CH2CH2-、シクロプロピルまたは場合によりハロゲ ンによりモノ管換ないしトリ管換されていてもよいフェ ニルを表すか、或いはAおよびR¹が一緒になって構造 C-O-CH₂-CH(CH₃)-の架橋を示すこともで き、R²がH、場合によりヒドロキシル、ハロゲンもし くはアミノにより優換されていてもよいC1-C1-アル キル、または5-メチル-2-オキソ-1,3-ジオキ ソルー4ーイルーメチルを表し、そしてBが式

[0512]

[化89]

【0513】の基を表し、ここでYがOまたはCH2を 表し、そしてR3がCH2CH2-CO-CH3、CH2C $H_2 = CO_2R'$

* 10

 $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$, $-CH=CH-CO_2R'$ \$\text{ \$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\$}}\$}}\$}

CH2CH2-CNを表し、ここでR'が水素またはC1 −C₃ - アルキルを示す、上記1-3の式(1)のキノ

ロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導体類の製造※

※方法において、式(II) [0514]

[(E90]

$$\begin{array}{c|c}
 & X & O \\
 &$$

【0515】 (式中、A、Y、X'、R'およびR²は上 記の意味を有する)の化合物を、ミハエル受容体、例え ばアセチレンジカルボン酸ジアルキル、プロピオン酸ア ルキルまたは式(IV)

[0516]

【作91】

$$CH_2 = CH - R^5 \tag{IV}$$

「式中、R⁵はCOCH₃、CO₂R' またはCNを表 す〕の化合物と反応させることを特徴とする方法。

[0517] 8. AMCH, CF, CCI, C-OCH 3、C-CH3またはNを表し、X¹がH、ハロゲン、N ★

★HzまたはCH3を表し、R¹がC1-C3-アルキル、F CH2CH2-、シクロプロピルまたは場合によりハロゲ ンによりモノ圏換ないしトリ圏換されていてもよいフェ ニルを表すか、或いはAおよびR1が一緒になって構造 C-O-CH₂-CH(CH₃)-の架橋を示すこともで き、R2がH、場合によりヒドロキシル、ハロゲンもし くはアミノにより圏換されていてもよい€1-€3-アル 30 キル。または5-メチル-2-オキソー1,3-ジオキ ソルー4ーイルーメチルを表し、そしてBが式

(II)

[0518]

[他92]

【0519】の基を表し、ここでYがOまたはCH2を ☆オキソアルキル、 表し、そしてR4がH、C1-C3-アルキル、C2-C5-☆40

 $CH_2-CO-C_8H_5$, $CH_2CH_2CO_2R'$, $R'O_2C-CH=C-CO_2R'$

、-CH=CH-CO2R'またはCH2CH2-CNを 表すか、或いは5-メチル-2-オキソー1,3-ジオ キソルー4ーイルーメチルを表し、ここでR'が水素ま たはC1-C3-アルキルを示す。上記1-3の式(1)

のキノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導体類 の製造方法において、式(V)

[0520]

I4:931

$$\begin{array}{c|c}
X^{1} & O \\
F & X^{2} & A & N \\
X^{2} & A & N \\
R^{1} & R^{2}
\end{array}$$
(V)

【0521】 〔式中、A、R¹、R²およびX¹は上記の 意味を有し、そして X2はハロゲン、特に弗素または塩 素を表す)の化合物を、適宜酸捕獲剤の存在下で、式 *

* (VI) [0522] 【化94】

30

【0523】 〔式中、YはOまたはCH2を表し、そし てR4はHまたはC1-C3-アルキルを表す)のエナン チオマー的に純粋な化合物と反応させ、そして反応生成 物を場合によりさらに式(IIIa)

[0524]

【化95】

$$\mathbb{R}^4 - \mathbb{X}^3 \tag{III a}$$

〔式中、X3は上記の意味を有しており、そしてR4はC 2-C5-オキソアルキル、CH2-CO-C6H5、CH2 CH2CO2R' またはCH2CH2-CNを表し、ここで R' は水素または $C_1-C_3-アルキルを示す$) の化合物 と或いはミハエル受容体、例えばアセチレンジカルボン 酸ジアルキル、プロビオン酸アルキルまたは式(IV)

[0525]

【作96】

$$CH_2 = CH - R^5 \tag{1V}$$

〔式中、R⁵はCOCH₃、CO₂R' またはCNを表 す〕の化合物と反応させることを特徴とする方法。

【0526】9、疾病を抑制するための、上記1-5の キノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘導体類。 【0527】10. 燃染性疾病を抑制するための、上記

20 1-5のキノロンーおよびナフチリドンーカルボン酸誘 遵依額。

【0528】11. 上記1-5のキノロンーおよびナフ チリドンーカルボン酸誘導体類を含有する薬剤。

【0529】12、上記1-5のキノロンーおよびナフ チリドンーカルボン酸誘導体類を含有する抗パクテリア

【0530】13. 感染性疾病抑制用薬剤の製造におけ る、上記1-5のキノロンーおよびナフチリドンーカル ボン酸誘導体類の使用。

技術表示箇所

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 5 識別記号 庁内整理番号 F CO7D 519/00 3 1 1 8415-4C // A 6 1 K 31/435 7252-4C 7252-4C 31/47 ADZ7252-4C

(CO7D 519/00

471:00)

31/535

(CO7D 519/00

471:00

498:00)

(72) 発明者 トーマス・シエンケ

ドイツ連邦共和国デー5060ベルギツシユー グラートバツハ2・ミユーレンシユトラー セ113

(72)発明者 トーマス・フイリップス ドイツ連邦共和国デー5000ケルン80・ジレ ジウスシユトラーセ74

- (72) 発明者 クラウス・グローエ ドイツ連邦共和国デー5068オーデンター ル・アムバツサートウルム10
- (72)発明者 クラウスーデイーター・ブレム ドイツ連邦共和国デー5600プツペルター ル・ギラデツトシユトラーセ120
- (72)発明者 ライナー・エンダーマン ドイツ連邦共和国デー5600ブツベルタール 1・インデンビルケン152アー
- (72)発明者 カールーゲオルク・メツツガー ドイツ連邦共和国デー5600ブツベルター ル・パールケシユトラーセ75
- (72)発明者 インゴ・ハラー ドイツ連邦共和国デー5600ブッペルタール 1・ドルンレスヘンベーク4